

伊豆大島火山博物館
リニューアル基本計画
改訂

令和 2(2020)年 3 月

大島町

目次

第1章	はじめに	4
1.	計画の策定経緯	5
2.	計画の策定手順	6
3.	リニューアル検討委員会の設置	7
4.	リニューアル基本計画改訂の経緯	9
5.	火山博物館の概要	10
6.	火山博物館の現状の課題	15
第2章	事業活動計画	18
1.	事業活動計画の検討	19
2.	施設の果たすべき役割	20
3.	「伊豆大島ジオミュージアム（仮）」のターゲット	23
4.	施設の活動	25
第3章	展示計画	28
1.	展示の基本方針	29
2.	常設展示	33
3.	交流スペース	46
4.	ゾーニング及び動線計画	49
第4章	施設計画	54
1.	施設計画	55
2.	事業活動に基づく諸室諸元	66
3.	設計・工事区分の考え方	69
第5章	管理運営計画	70
1.	運営に求められる機能	72
2.	運営方式の検討	73
3.	開館時間・閉館日の検討	75

4. 入館料の検討	76
第6章 今後の事業推進に向けて	80
1. 今後のスケジュール	81
2. 事業費の検討	83

付図

展示平面計画

第1章 はじめに

1. 計画の策定経緯

伊豆大島が日本ジオパークの認定を受けて、 島内外多くの人に魅力を発信し、継承していく計画づくり

伊豆大島火山博物館（以下、火山博物館）は、全島避難となった1986（昭和61）年の伊豆大島火山噴火を契機に、火山についての正しい認識や防災への心がまえ、さらには火山への深い理解を得る機会が必要であると再認識されました。そのため火山に関して広く学べる博物館整備の機運が高まり、「伊豆大島火山博物館専門委員会」を設置し、専門家の意見を踏まえ検討を進め、火山専門の博物館として1990（平成2）年7月に開館しました。

同施設では、日本および世界各地の火山に関する種類やメカニズム・火山現象、噴火災害・監視観測等について、実物資料やグラフィック、体験装置などを通じて学ぶことができ、火山と人とのつながりを体験できる場として運営されています。

しかし現状の火山博物館は、開館から現在まで展示の更新やリニューアルが行われておらず、展示装置の老朽化や、展示内容の情報が古くなっているものがあります。また、内容も専門的なものが多いため、多様な来館者に向けて展示内容の見直しが必要と考えられます。

さらに伊豆大島は、地球科学的に価値が高い大地（ジオ）と、それを基盤に育まれた生態系や私たちの暮らしとのつながりを学び楽しむことができる地域として、2010（平成22）年9月に「日本ジオパーク」に認定されました。日本ジオパークでは、エリア内の貴重な地域資源を保全し、教育やジオツーリズム等に活用しながら、地域の持続可能な発展をめざすことが求められます。火山博物館はその活動拠点として活用できるよう、施設のあり方の見直しが必要な時期を迎えています。

こうした状況を受け、大島町は平成28年3月に策定した「第6次 大島町基本構想・前期基本計画」の中でジオツーリズムの充実化、火山博物館を町営の主要観光施設として位置づけ「家族で楽しく学べる博物館」、また伊豆大島ジオパークのビジターセンター機能として、リニューアルの必要性を掲げています。

以上のことから本計画では、火山博物館が伊豆大島を訪れる多くの来島者及び島内住民に、伊豆大島を楽しむための情報をわかりやすく提供し、伊豆大島を好きになってもらい、その魅力を継承していくための場となることを目指した、事業活動計画、展示計画、施設計画等の基本となる事項をとりまとめます。

2. 計画の策定手順

事業活動・展示内容から必要な機能等を検討

本計画では、はじめに、火山博物館のリニューアル後の施設のあり方として、伊豆大島の成り立ちや火山のメカニズム、そして災害に対応するための防災知識を学び、また火山が育んだ魅力の発見の場となることと、それらを継承すること、さらにジオパークの中核拠点として伊豆大島を楽しむための情報と交流を提供する場所となるために必要な事業活動や展示内容を検討し、その後、それらを実現するための施設機能や条件等を導き出しました。

具体的には、大きく5つの手順（章構成）で検討を進めました。

本章では、火山博物館の現状や課題等を確認します。第2章「事業活動計画」及び第3章「展示計画」では、施設運営のソフト面（来館者に伝えたいこととその手段）に関する整理を進めました。

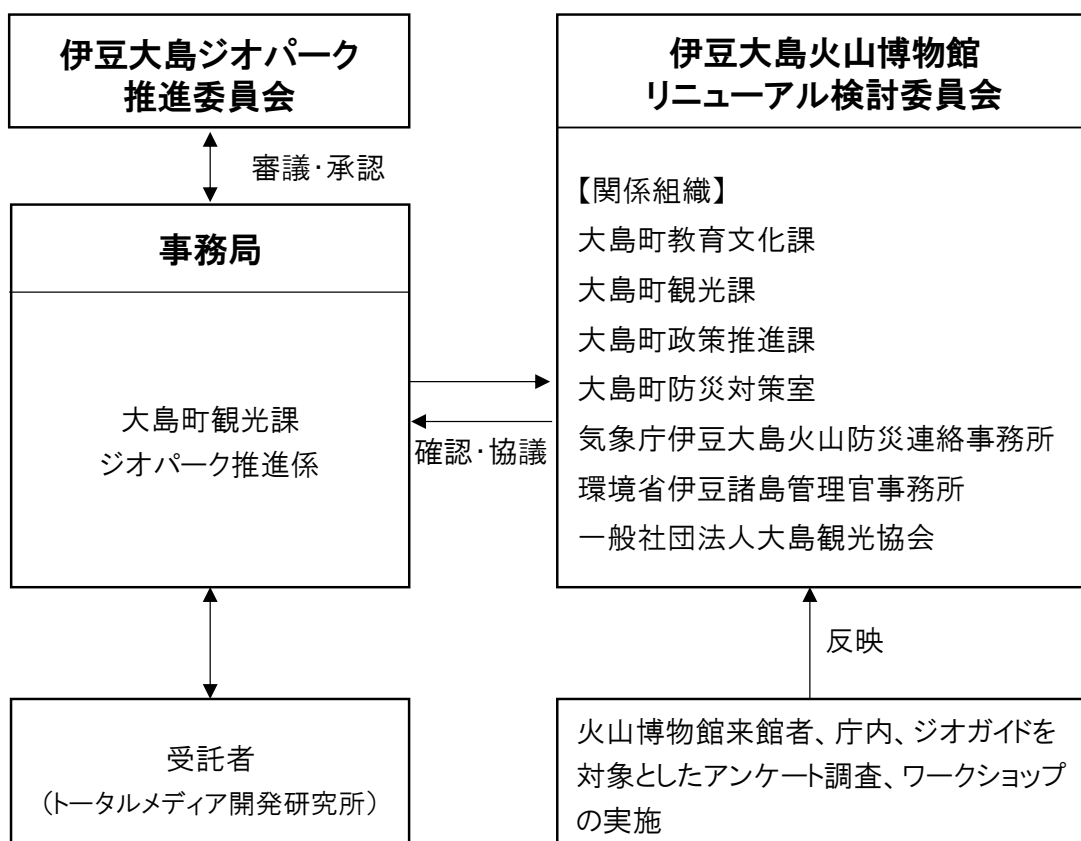
そのうえで、第4章以降では、施設のハード面に関することや、継続的な事業実施に向けた管理運営に関する検討結果を取りまとめ、訴求内容を明確にした実現性の高い計画を目指しました。

1	火山博物館の 現状と課題の確認	火山博物館の現状と課題を確認し リニューアルの方向性検討の材料とする
2	事業活動計画	どのような事業活動を展開し、 何を残し伝え発信するのかを考える
3	展示計画	展示を通してどのように発信し、体験してもらうか、 事業活動につながる仕組みを考える
4	施設計画	現施設の課題解決・事業活動・展示を実現するために 必要となる施設の条件を整理する
5	管理運営計画	事業活動・展示・施設を継続して 管理運営するための条件を整理する
6	今後の事業推進に向けて	リニューアルに伴う開館準備等に係る留意点や、 スケジュール・概算費用の算定をまとめる

3. リニューアル検討委員会の設置

火山博物館リニューアルの方向性を委員会で検討

まず、来館者や庁内・ジオガイドを対象としたアンケート調査やワークショップを行い、現状の問題点とそれらの解決策案を抽出しました。そして、町関係部署及び外部有識者を委員とした「伊豆大島火山博物館リニューアル検討委員会」を設置し、リニューアルの大きな方向性について検討しました。平成30年度は5回の検討委員会を開催し、「伊豆大島火山博物館リニューアル基本構想・基本計画」について検討しました。



(1) 主な検討内容

第1回 平成30年8月3日

- ・火山博物館の現状の確認
- ・伊豆大島の観光動向の確認
- ・リニューアル計画の検討手順の確認
- ・ありたい姿の検討
- ・ターゲットの検討

第2回 平成30年10月16日

- ・ありたい姿の検討
- ・ターゲットと機能連携の検討
- ・展示ストーリーの検討

第3回 平成30年11月22日

- ・事業活動について検討
- ・展示ストーリーの検討
- ・展示ゾーニングの検討

第4回 平成31年1月28日

- ・展示ゾーニングの検討
- ・管理運営計画の検討
- ・リニューアル基本計画の確認

第5回 平成31年2月22日

- ・リニューアル基本計画の確認

4. リニューアル基本計画改訂の経緯

平成 30 年度策定「伊豆大島火山博物館リニューアル基本計画書」について町の財政状況などを踏まえ、計画された事業費を縮小とする方針決定に伴い、事業費縮小を前提として効果的なリニューアルが維持される計画の再検討を行い、改訂しました。

○平成 31 年度 第 1 回 検討委員会 令和元年 9 月 2 日

基本計画の見直しについて意見聴取

- ・ 当初の計画で積算された事業費約 12 億円について、財政状況等を踏まえ事業縮小とする町の方針決定を以って、検討委員会において意見聴取を行った。
- ・ より集客が期待できる場所への施設移転として新館の建設や、現施設の併設として新たな展示物のみを備えた別館の新設等の意見があがりました。

○町長および事務局意見交換 令和元年 9 月 2 日

検討委員会の結果をもとに意見交換

- ・ 火山博物館のリニューアルを目的とした計画であるため、施設場所の移転は方針と異なるため、リニューアルを前提とした事業費の縮小に伴う基本計画の改訂とすることとなりました。

○町長および事務局意見交換 令和元年 11 月 12 日

財政状況を踏まえた事業費別によるリニューアルプラン概要をもとに、基本計画改訂業務の進め方について意見交換を行い、以下の方針を確認

- ・ 財政状況を踏まえた事業費別に比較検討、効果のあるリニューアルプランを選定し、本計画改訂業務を進めることとなりました。
- ・ 事業費の縮小が可能な要因を明らかにするため、また展示リニューアルに伴った施設改修にかかる費用の算定精度高めるため、既存建物の事前調査業務を含めた基本計画改訂業務を実施することとなりました。

○平成 31 年度 第 2 回 検討委員会 令和 2 年 1 月 28 日

- ・ 基本計画改訂内容に関して、基本計画に記載の基本方針を遵守したうえで、予算規模縮小に伴う変更については観光課の改訂方針で進めることが承認されました。

5. 火山博物館の概要

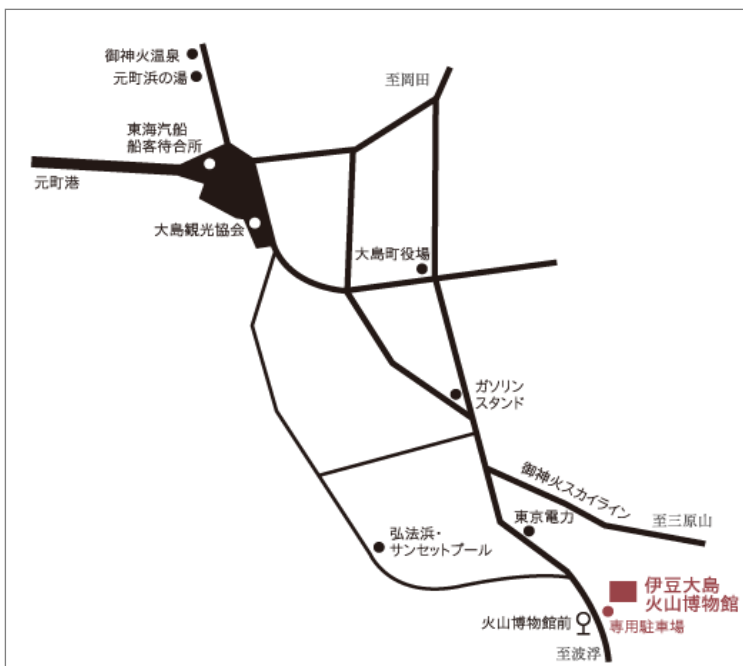
現状の火山博物館の概要を確認

(1) 施設の概要

- ・施設名称 伊豆大島火山博物館
- ・所在地 東京都大島町元町字神田屋敷 617 番
- ・面積 敷地面積 18,713 m²
建築面積 1,157 m² 延床面積 1,818 m²
- ・構造階数 鉄骨、鉄筋コンクリート造、地上 2 階
- ・主な施設構成 ホール、展示室、資料室、研究室、実験室、研修室、事務室、備蓄室、ヘリポート、イベント広場、駐車場
※ヘリポートについては、地域防災計画の指定なし

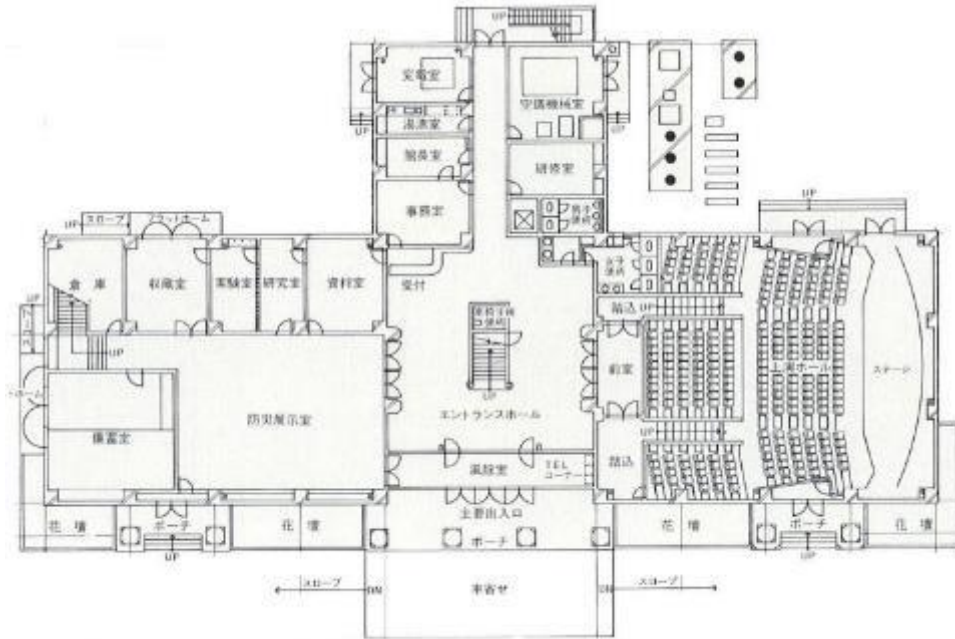
(2) 施設位置及び平面図

■位置図

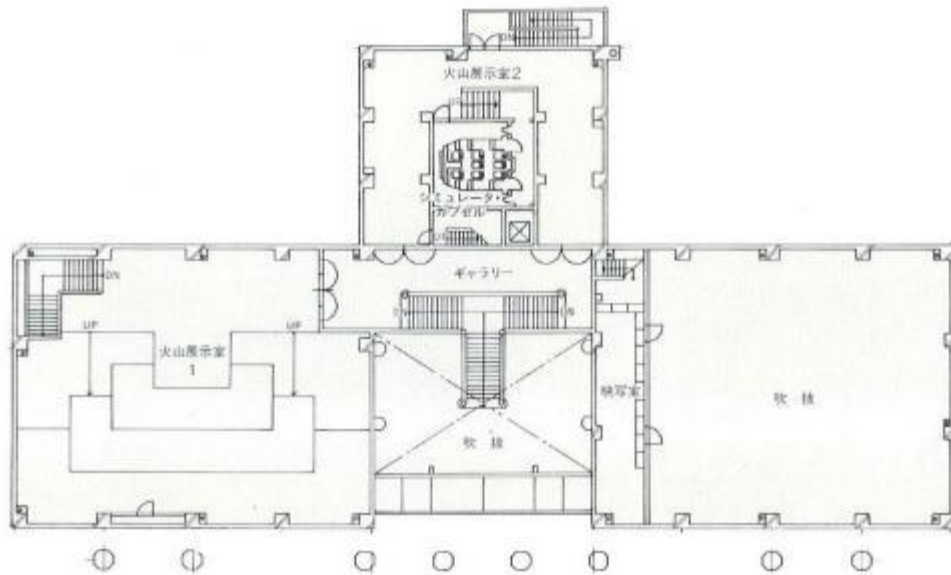


■施設平面図

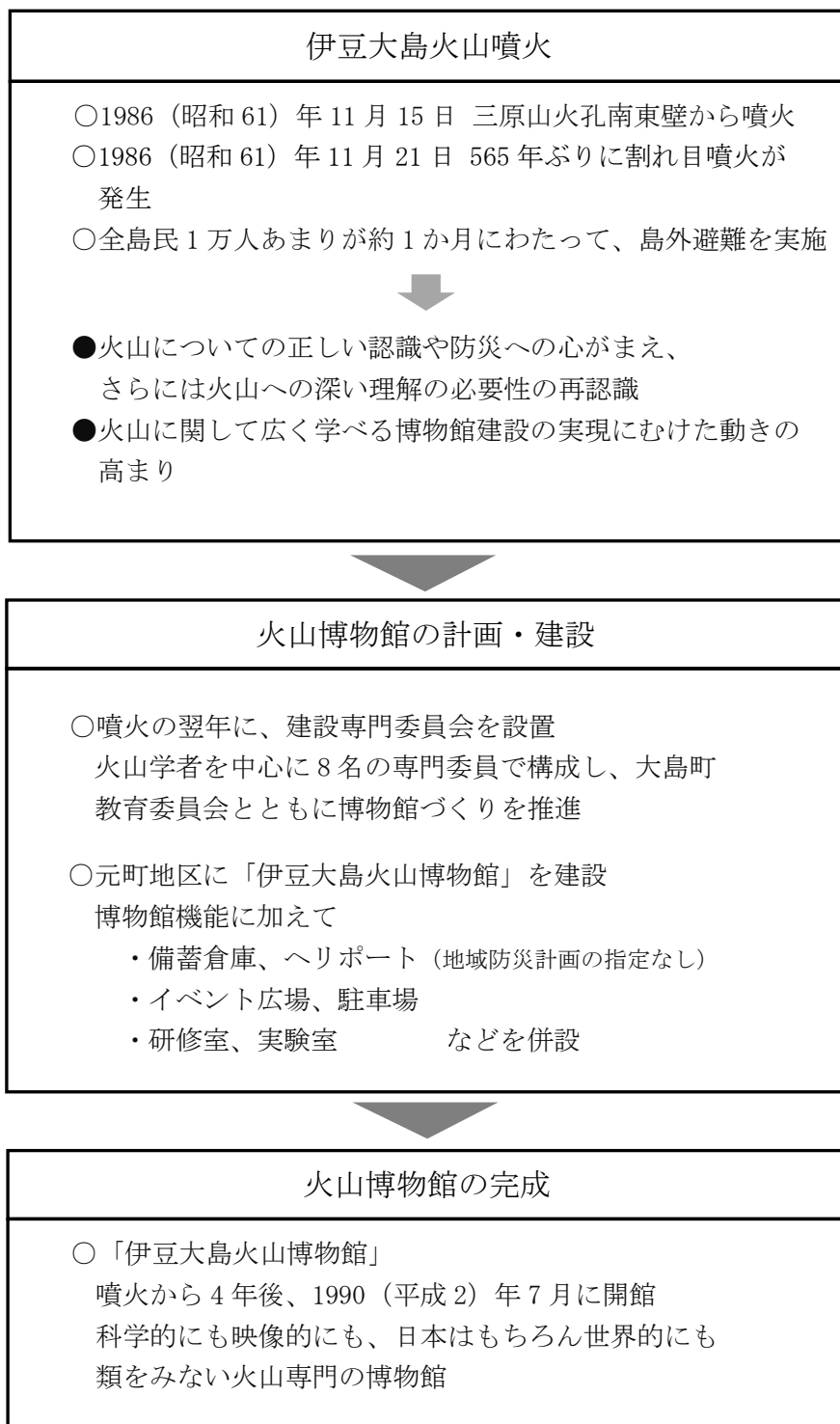
1階



2階



(3) 施設の沿革



(4) 開館後のあゆみ

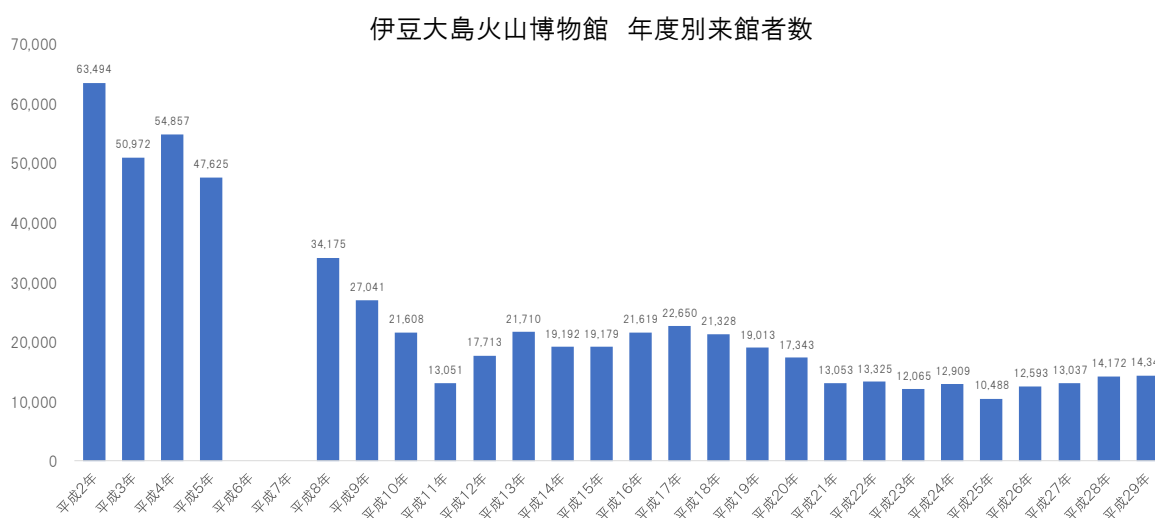
①施設の運営及び活動の状況

	開館 1990 (平成 2) 年～ 2005 (平成 17) 年	2006 (平成 18) 年～
所管	大島町教育文化課	大島町観光課 指定管理者：(一社) 大島観光協会
運営体制	職員 3 名 アルバイト 9 名程度	職員 5～6 名
博物館を 活用した 主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展の開催 ・映画鑑賞 (小学校) などを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・映画鑑賞 (学校) ・ハワイ島交流会 ・ジオガイド養成講座 ・親子実験教室 ・マンドリン演奏会 などを実施

②来館者数の推移

開館した平成 2 年に最多の 63,494 人/年 を記録した入館者数は、平成 11 年の 13,051 人/年 まで、年間約 4,000～8,000 人ずつ減少していきました。その後、ゆるやかな回復をみせ、平成 17 年には 22,650 人/年まで戻るも、再び減少に転じました。

大規模土砂災害が発生した平成 25 年には、過去最少の 10,488 人/年を記録しましたが、その後は徐々に回復傾向となっています。



(5) 展示および設備の改修状況

① 展示設備について

開館以来、本格的な展示リニューアル等の改修は実施していません。

ア ホール映像システムのデジタル化及び、映像リニューアル

- ・デジタルシネマシステムを導入（平成 28 年）
旧来の 70mm フィルムシステムからデジタル化へ改修。
- ・映像ソフトのデジタル化（平成 28 年）
70mm フィルムからデジタル映像 2K に変換を実施。
- ・4K 対応のデジタル映像「伊豆大島ジオパーク～地球の鼓動が聞こえる～」を制作。（平成 30 年）



イ 新しい情報への対応

- ・「ジオパークコーナー」の設置（平成 26 年）
1 階展示室に、伊豆大島ジオパークをはじめ、日本各地のジオパークを紹介するコーナーを追加。
- ・新規情報については、手づくりのパネル等で対応。



② 建築設備について

経年劣化や設備の不具合、安全対策などの要因で設備等の修繕工事を実施し、施設の管理を行っています。

ア 建築本体

- ・経年劣化等により、外壁タイルの張替えを実施（平成 19 年、20 年）
- ・入口扉の改修（平成 31 年）
経年劣化及び塩害により使用ができなくなっていた入り口 3 箇所すべての扉を新たなステンレス製のものに改修。
- ・建具改修工事（令和 2 年 3 月末）
令和元年台風 15 号により損壊した 1 階非常口及び、1 階収蔵庫搬入口扉の改修。

イ 空調設備

- ・空調設備を吸収式からヒートポンプへ改修工事を実施（平成 21 年）

ウ 機械設備

- ・ホール舞台の吊物機構の修繕工事を実施（平成 23 年）
- ・エレベーターの修繕工事を実施（平成 24 年）

エ 電気設備

- ・ホールの照明を交換（平成 22 年）

オ サイン設備

- ・駐車場案内板作成・設置（平成 30 年）
駐車場入り口に開館時間と上映時間を記載した看板を設置。

6. 火山博物館の現状の課題

施設の現状課題を確認し、実現性の高いリニューアルを計画する

現在の火山博物館が抱える課題について、リニューアル検討委員会で議論された課題点を中心に「事業活動」「展示計画」「施設機能」「その他」の4つの項目ごとに整理し、効果的かつ精度の高いリニューアル計画を検討するための材料とします。

(1) 事業活動の課題

① 学芸員が不在のため、博物館活動が適正に実施されていない

学芸員などの展示に関する専任担当者が不在のため、収集保存、調査研究、展示公開などといった基本的な博物館活動が行われていません。したがって、これらの活動を実現するための運営体制を見直す必要があります。

② 積極的な広報活動がなされていない

ア 火山博物館の活動やイベント、展示に関する広報が十分になされていないため、来島者が行きたくなるような施設となっていない現状にあります。より多くの人に来館してもらうためには、伊豆大島に関する情報発信積極的に取り組む必要があります。

イ 館内は写真撮影禁止であり、SNSを活用した情報の展開が難しい状態のため、フォトスポットや撮影可能な魅力的な展示を展開するなどの来館者が広報できるようなしくみが必要です。

(2) 展示計画の課題

① 伊豆大島の魅力や防災教育に関する展示が少ない

現状では、火山に関する自然科学的な展示が主となっているため、火山がもたらした伊豆大島の魅力や人々の暮らし、火山災害や土砂災害に関する防災教育を伝える展示を増やすなど、展示構成の見直しが必要です。

② 専門的な内容が多く、親しみづらい

ア 解説などに専門用語が多く、一般来館者や子どもたちにはやや難しい内容となっています。また、グラフィックパネル中心の解説で、デザインや手法共に一般来館者に対して親しみづらいものとなっているため、多くの来館者に対し普遍的な魅力を与えられる展示に見直す必要があります。

イ 一部展示資料は、資料解説が不足しており、来館者に伝えたい内容を効果的に訴求できていないものがあるため、読み疲れのおきない、伝わりやすい手法の解説展示が必要です。

ウ 体験展示や触れる展示が極端に少ないため、来館者の興味を喚起する展示を増やす必要があります。

③ 展示設備の老朽化

展示物の老朽化、キャプションなどの破損や劣化が見られるうえ、展示内容が開館当時の状態から更新されておらず、その後の火山噴火史や火山研究成果が反映されていないため、展示設備の更新や、展示内容の見直しが必要です。

④ 展示空間が狭い印象である

ア 展示室内は高い展示壁に覆われており、動線も狭く来館者にとって圧迫感があります。そのため来館者にとって意心地の良い、開放感のある展示空間の検討が必要になります。

イ 目玉展示の一つである、地層大切断面剥取標本も、展示壁にふさがれていることから、その全体像が見せられていない状態です。そのため、地層大切断面剥取標本の全体を望めるような空間構成の検討が必要です。

(3) 施設機能の課題

① エントランススペースの充実

エントランス中央には、2階に上がる階段が設置されており、来館者に圧迫感を与えています。また、空きスペースが狭くエントランスの機能が制限されているため、エントランスの機能、デザインの検討が必要です。

② ユニバーサルデザイン、バリアフリーへの対応

ア 現状は誘導サインや館内サインが少ないため、来館者の動線がわかりにくい状態です。今後多様な来館者を見据え、わかりやすいインフォメーションサイン、誘導サインなどの検討が必要です。

イ 現状、施設内に通路幅が狭い箇所や、一部段差があるなど、車いす利用者や足の不自由な方には少し利用しづらい状態です。そのため、誰もが使いやすい施設とするため、動線幅や館内外のバリアフリー化の再検討が必要です。

③ 日常的に利用できる機能の設置

施設全体が有料であるため、気軽に訪れたり、地元の人々の日常利用がしづらい状態です。そのため、天候に関わらず誰でも気軽に訪れて休憩や交流ができるようなオープンなスペースなど、日常利用できる機能を持たせることで、より多くの人々が活用できる活気ある施設整備が必要です。

④ イベントスペースの設置

現状、大人数が来館した際に、待機や学習するスペースが不足しているため、今後の団体利用を含めた多様な利用者の誘客のために、イベントやワークショップ、団体利用の際の待合など、柔軟な利用が可能な体験学習室の整備が必要です。

⑤ ガイド機能の設置

現状、研修室を改装して、ジオパークコーナーを設けているが、仮設的でありジオパークの魅力十分に発信できていない状態となっています。今後、伊豆大島ジオパーク認定ジオガイド（以下、ジオガイド）の活動拠点施設として、ジオパークを楽しむための展示や、ガイド活動を充実させるための機能整備が必要です。

⑥ ガイド用準備室の設置

島内には現状ジオガイドが常駐し、活動できる場所がなく、ガイド活動が十分に行えない状態のため、活動の幅を広げ、拡充が行えるスペースが必要です。

⑦ 企画展示室の設置

現状、施設内に企画展示室がなく、自主制作もしくは他施設と連携し、資料を借用した企画展示ができない状態です。今後、他館との連携やリピーター確保などを目指すことも視野に入れ、様々な企画展に対応できる展示室が必要です。企画展示室は有料、無料の両方に対応できるように、他の諸室と空間を区切ることが必要です。

（４）屋外・外構について

① 建物へのアプローチの検討

駐車場から建物までの距離があり、また急な階段や坂を上る必要もあるため、施設へ行きづらい状態です。そのため、体が不自由な方をはじめとして、様々な来館者が施設に容易に訪れられるようなアプローチ方法を検討する必要があります。また、建物までの距離も楽しめる仕掛けを検討する必要があります。

第2章 事業活動計画

1. 事業活動計画の検討

施設のありたい姿から、ターゲットや事業活動を整理し、 必要な機能や諸室を検討する

事業活動の具体的な検討にあたり、まず、「伊豆大島火山博物館」のありたい姿の設定とターゲットの整理を行うことで、リニューアルの大きな方針と、メインとして見据える対象、そして様々な利用者・関係者・団体が明らかになります。本章でははじめにターゲットを整理した上で、事業活動別に実施が可能な取り組みを検討するとともに、その活動を実現するための機能を整理していきます。

機能の整理は、必要となる諸室やその規模や仕様（明るさ、壁の色や空調環境といった設備面、建物の構造など建物を設計する上での条件）を導き出すための基準となります。

また、事業活動の内容を設定していくことで、年間の管理運営費や必要となる人員配置などを検討するための材料にもなります。



2. 施設の果たすべき役割

火山の島 伊豆大島の特徴を知り、その魅力を共有し、発信させていくことで、伊豆大島全体を楽しめる場として、持続的な賑わいの創出につなげる。

(1) 「火山博物館」から「伊豆大島ジオミュージアム（仮）」へ

伊豆大島は2010（平成22）年に日本ジオパークに認定されました。

このことから火山博物館は、伊豆大島だからこそ伝えられる火山の魅力や火山防災についてはもちろんのこと、火山と生き物や人の暮らしとのつながりを科学的に明らかにし、その価値や魅力を楽しみながら継承していくジオパーク活動の拠点施設としての活用が必須となっています。

上記活用を実施していくために「火山博物館」から「伊豆大島ジオミュージアム（仮）」へ姿を変え、観光の視点では強い誘客デスティネーションとなるとともに、島の暮らしや産業といった視点からはこれからの伊豆大島の活力を生み出すエンジンとしての働きを求められる場所とする必要があります。

「火山博物館」から
「伊豆大島ジオミュージアム（仮）」へ

(2) ありたい姿

「伊豆大島ジオミュージアム（仮）」は、伊豆大島及び火山博物館の来訪者にとって以下の役割を果たす拠点となります。

① 伊豆大島にとって

島のアイデンティティの継承と同時に、島の持つ魅力を島民たちと共に成長させる舞台となることで、島にさらなる活力を生み出していく拠点とします。

ア アイデンティティの継承

現在の産業や暮らしにつながる島の成り立ちや火山のメカニズムを知ってもらうことで、自らが生きる土地により深い興味と愛着を醸成します。

イ 伊豆大島の持つ魅力を成長させる

地域の人たちが、自然環境を活かし、守りながら持続可能なライフスタイルを築き上げていくことは、地域独自の観光資源の魅力を高めることへとつながっていきます。ジオミュージアム（仮）は、大地の成り立ちと仕組みへの気づきのきっかけを提供し、自然と人の結びつきを伝えることで、伊豆大島独自の魅力がどこにあるかを明らかにします。この魅力の新しい楽しみ方を、島民と島外からの来訪者の交流を通してともにつくり、成長させていく場となります。

ウ リピーター獲得に向けて

伊豆大島の魅力をよく知る人たちが、元気で生き生きとジオパークを活用する姿が島にあふれていれば、新たにきた観光客をはじめとする来島者の感動と共感を呼び、何度でも来たくなると思ってもらえるようになり、持続可能なリピーターの獲得へつながります。島をジオパークの思想に基づいて活かしてくれる人々を見出し、そうした方々の活躍の場と機会を充実させ、リピーターの好循環を生み出すきっかけづくりを目指します。

② 来訪者にとって

火山が生み出した大地・人・文化との交流、伊豆大島だからこそ得られるユニークで価値の高い発見と体験を楽しむ拠点とします。

ア 島内観光のゲートウェイとして

来島後、初めに訪れる拠点として、島内の多様な魅力に気づくきっかけとなり、自分に合った島の楽しみ方を見つけることができる場所とします。

イ 火山から広がる多様な魅力を楽しむ

「火山」からの恵みである他の地域では見られない、伊豆大島の人々のくらし、いとなみ、あそびに感動する場とします。

くらし : 生活文化、食事、地域環境、景観

いとなみ : 産品、製品、サービス

あそび : さまざまな活動

ウ リアルな交流が楽しめる

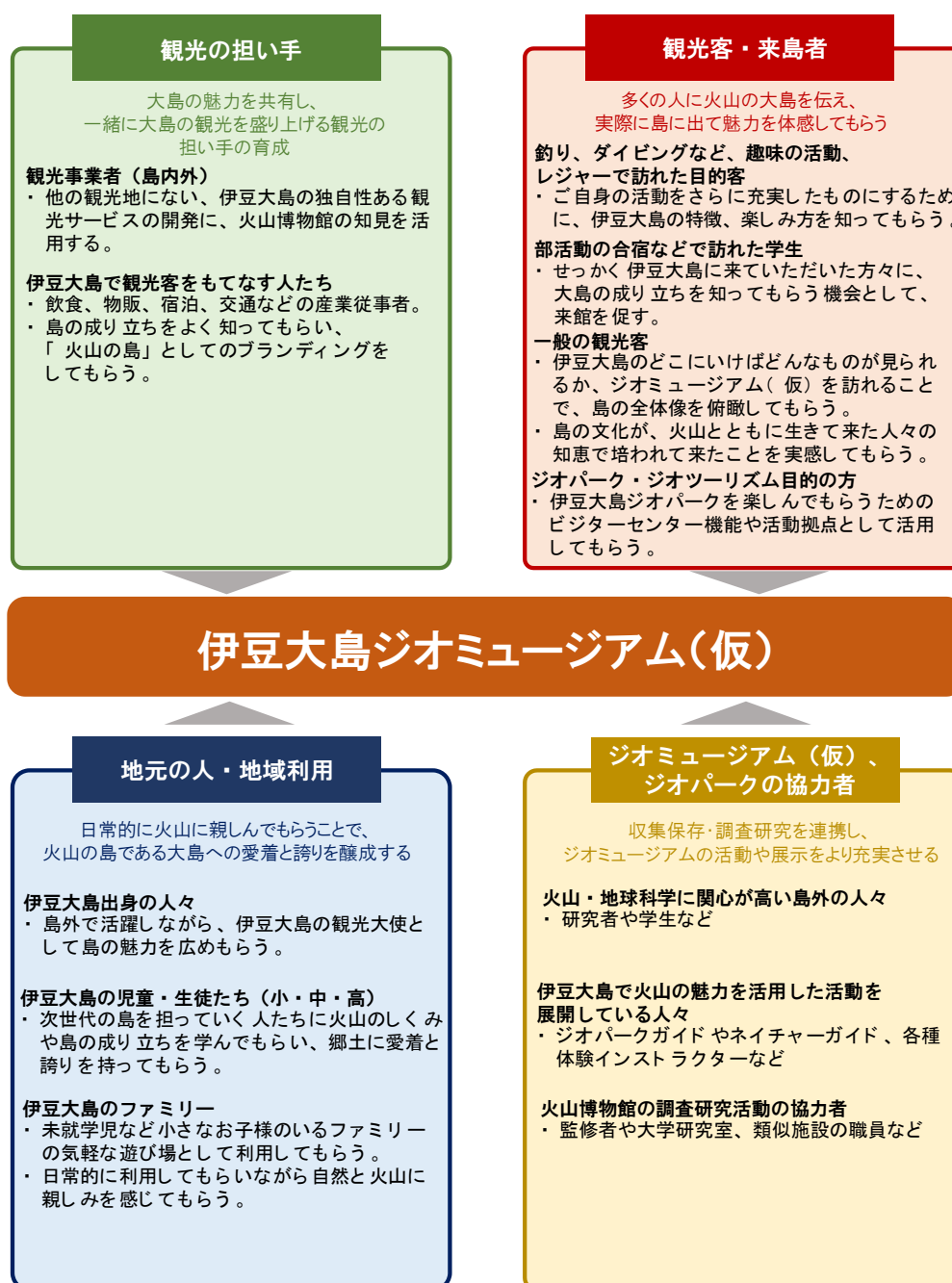
島民の活動がジオミュージアム（仮）に根付き、観光客はいつでも島民とのリアルな交流を楽しめる場所とします。

3. 「伊豆大島ジオミュージアム（仮）」のターゲット

伊豆大島の魅力を伝える相手と、その魅力を共に磨く人たちとの交流の場

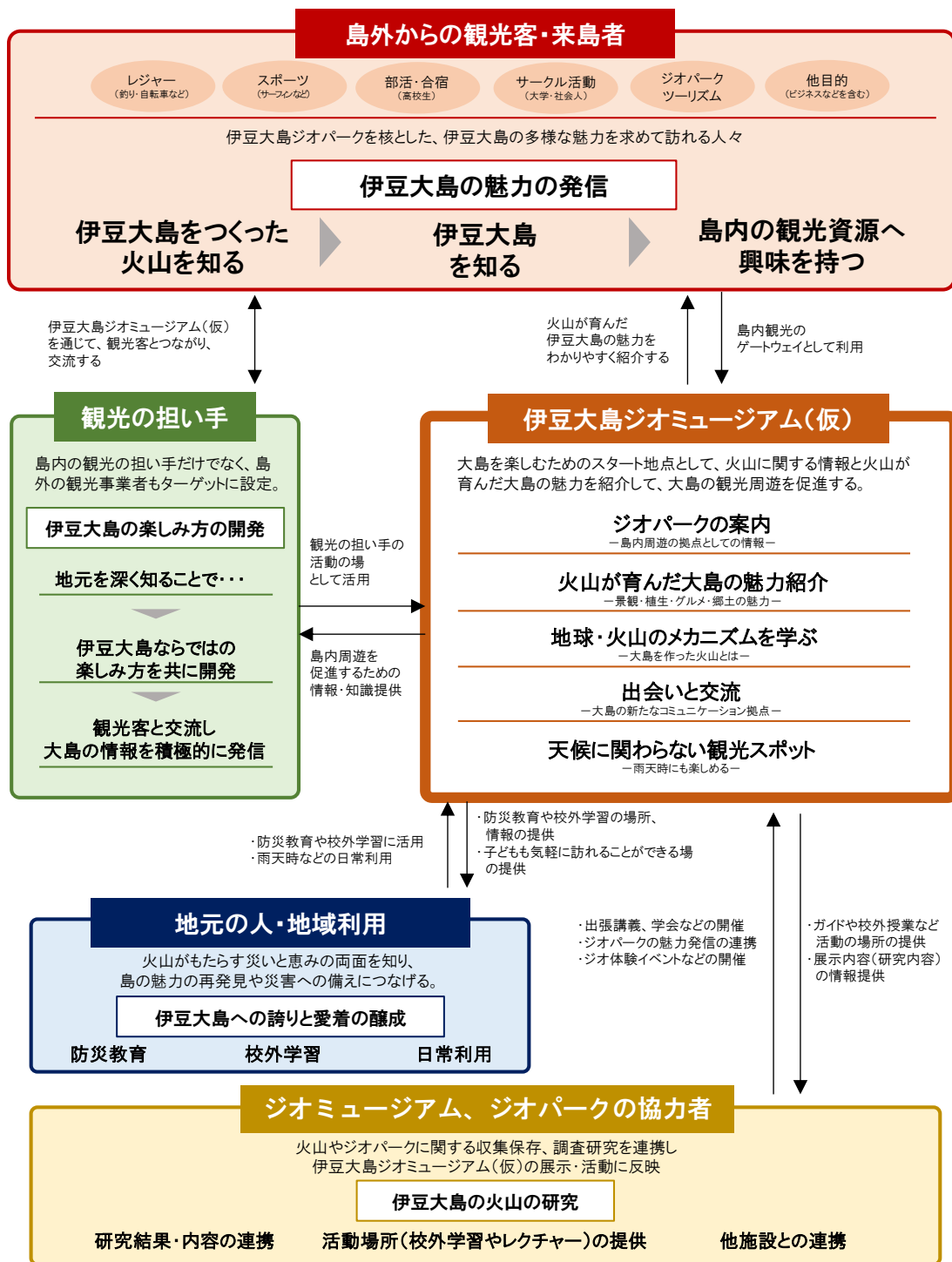
(1) ターゲットの設定

ジオミュージアム（仮）は火山を通して交流できる場所とし、ターゲットは、火山の島「伊豆大島」の魅力を伝えたい「観光客・来島者」と、その魅力を共に磨き、発信してくれる「観光の担い手」、「地元の人・地域利用」、「ジオミュージアム（仮）、ジオパークの協力者」として設定します。



(2) 「伊豆大島ジオミュージアム（仮）」とターゲットとの関わり

大島の多様な魅力を堪能したい観光客・来島者はもちろんのこと、その魅力の下支えをする島民や観光の担い手もまた「伊豆大島ジオミュージアム（仮）」の大切なターゲットとなります。「人を呼び込む」「大島の魅力を魅せる」「人・賑わいを地域に広げる」と、大島全体に人と賑わいの循環を生み出し、活性化を牽引するエンジンとして、ターゲットが伊豆大島ジオミュージアム（仮）を継続的に機能させる存在となります。



4. 施設の活動

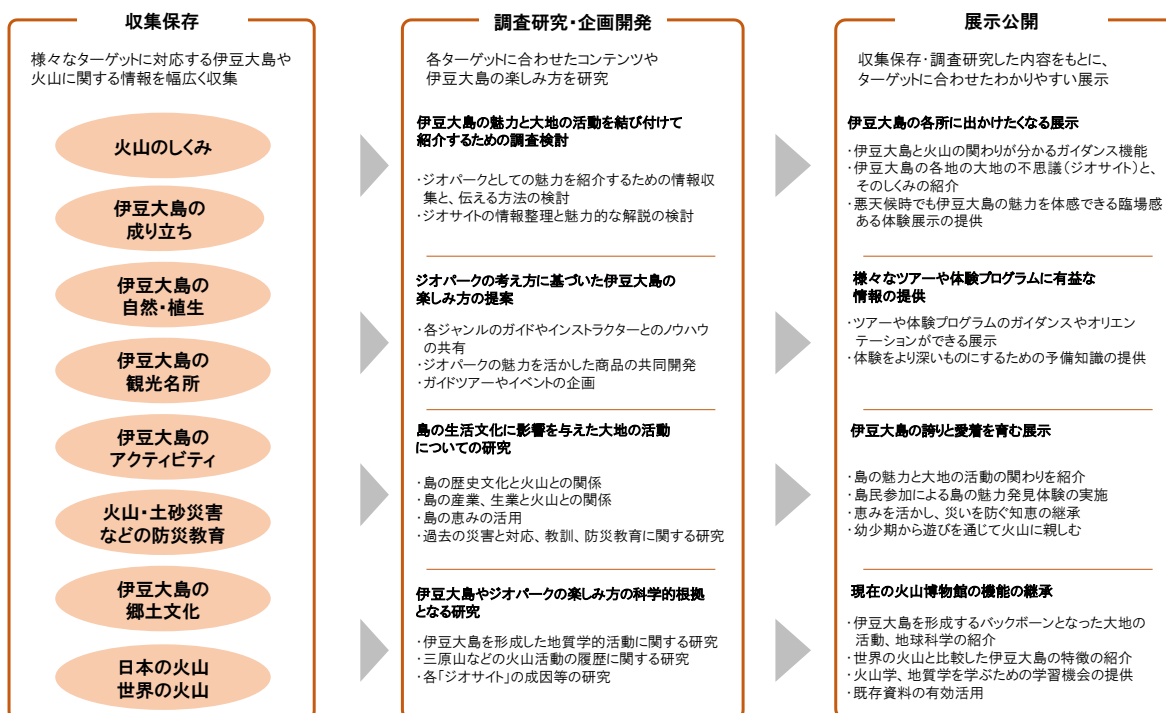
ターゲットに合わせた活動を計画し、様々な人と連携して機能する場を作る

(1) 活動テーマ

大島の人々や伊豆大島の観光の担い手による情報発信を促進するために、ジオパークとしての独自性をもった伊豆大島のブランディングに貢献する活動を展開します。そのために施設の活動については次の活動テーマを設定します。

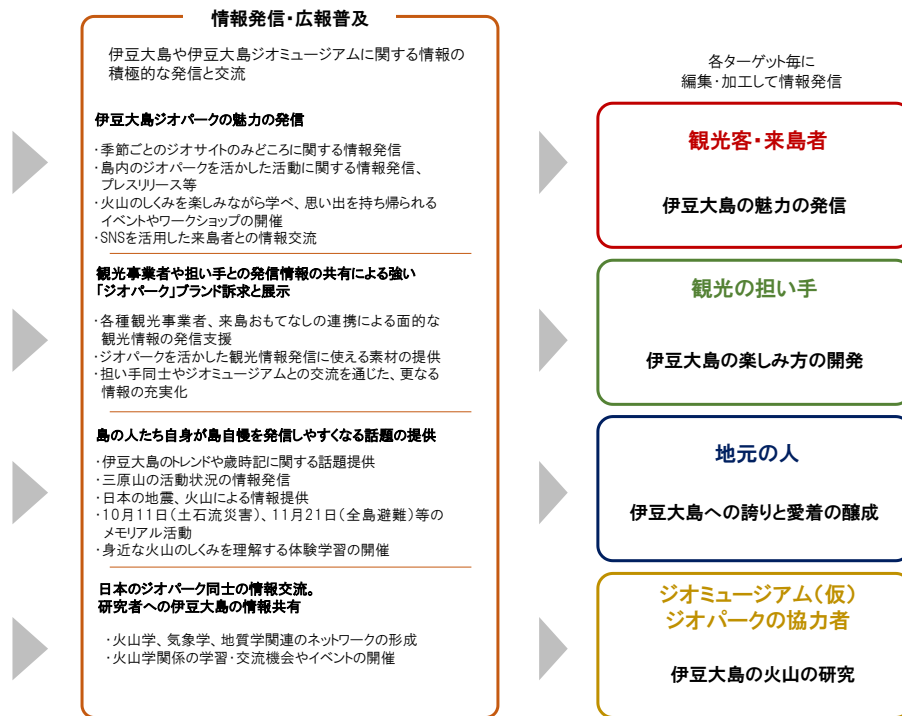
活動テーマ

「伊豆大島を形作る大地の活動」を多様な視点から見出し、
「伊豆大島の魅力」を広く伝えていく活動



(2) 活動の流れ

施設の活動については、これまでに設定した施設のターゲットに合わせて、ありたい姿を実現するために、島民や観光の担い手、ジオパークやジオミュージアムに関わる人たちが一体となって伊豆大島を盛り上げ、伊豆大島の魅力の発信を積極的に行い、多く来島者にジオを通じた感動体験をしてもらう事が大切になります。



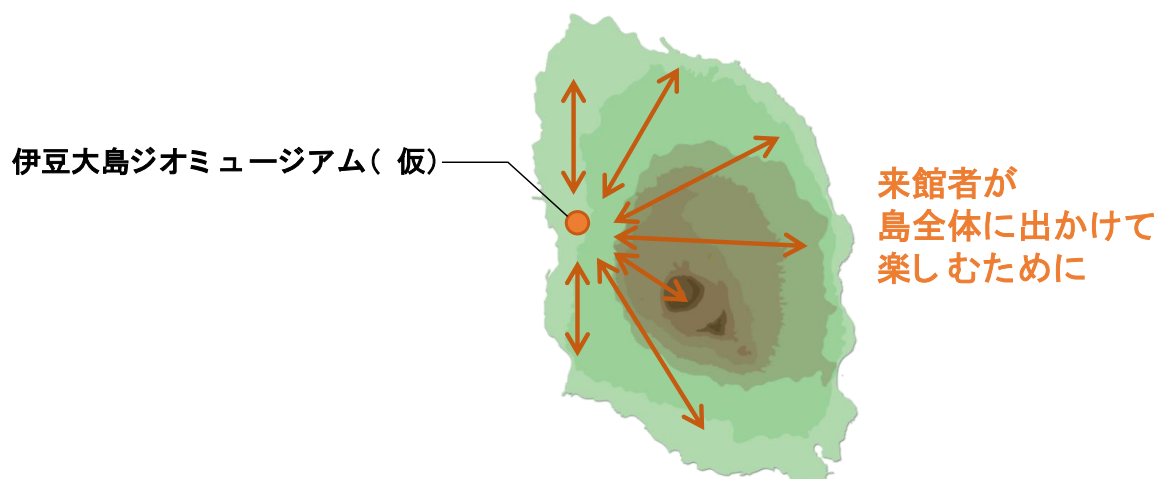
第3章 展示計画

1. 展示の基本方針

伊豆大島全体を、より楽しんでもらうために、
大地の活動と、自然や私たちとの関わりに気づいてもらうきっかけの
コミュニケーションの場をめざす

(1) 伊豆大島全体を楽しむために

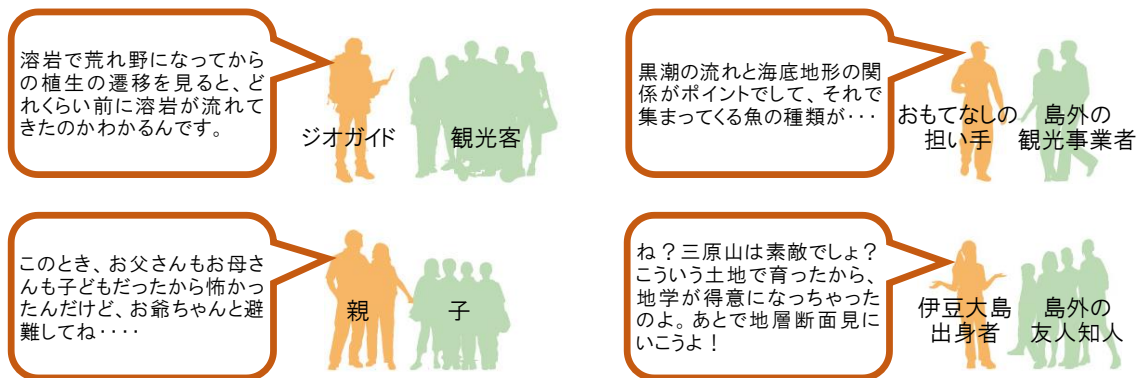
展示の基本方針は、伊豆大島ジオミュージアム（仮）を訪れた来館者の体験が、ジオミュージアム（仮）の中だけで完結するのではなく、伊豆大島ジオパークとしての島全体に出かけて行き、実際のフィールドで火山や火山が育んだ伊豆大島の姿を楽しんでもらうことを促すためのきっかけの場として計画します。



(2) コミュニケーションの場として

伊豆大島を楽しんでいただくためには、どのような楽しみ方があるのかを伝える必要があります。そのためには、既に伊豆大島の魅力に気づき、様々な活動を展開されている方々が感じ取っている楽しさを、まだ魅力に気づいてない方々にも共感していただくことが効果的です。ジオガイドの方々と観光客、家族で訪れた親と子、伊豆大島出身者と島外の友人知人といった方々が、大いに伊豆大島の魅力について語り合うきっかけとなる知識や情報を提供して、コミュニケーションの場となるよう計画します。

様々なコミュニケーション(例)の生まれる場所



(3) 展示に求められる効果

来館者が伊豆大島全体を巡りたくなる様、多様なコミュニケーションを喚起するために、以下の様な効果を生み出せる展示を目指します。

- ・大地の活動がつくる自然の地形や景観に感動し、ジオサイトに足を運びたくなる
- ・地形、植生、街並みなどの景観から大地の活動をイメージできるようになる
- ・他にはない地域の魅力や素晴らしさを知り、楽しく活用できるようになる

(4) 展示が提供するコミュニケーションの方向性

(3) で挙げた効果を生み出すために必要なコミュニケーションとはどのような内容であるべきか、その方向性を検討しました。

→五感をフルに活用して大地の活動の証に感動し楽しむことができる。

ジオ感受性の涵養

①「どこを見ればいいのか？」大地を見る目を育てる

伊豆大島には、地球の活動の結果として作れた独特の地形や景観あることを見せる。

②「どうしてこうなったの？」科学的な想像力を育てる

こうした地形や景観をつくりあげた、伊豆大島独自の火山活動や風、波の作用を伝える。

③「みんなつながっている！」つながりの気づきを育てる

火山などの地球の活動が作った大地、そこに生まれた動植物の生態系、そして営まれてきた人々の暮らしなどを伝える。

④「もっと楽しもう！」交流を通して創造力を育てる

伊豆大島で楽しめる活動について、既に活動している方々とこれからの方々の交流を通して共有し、さらに活性化していく。

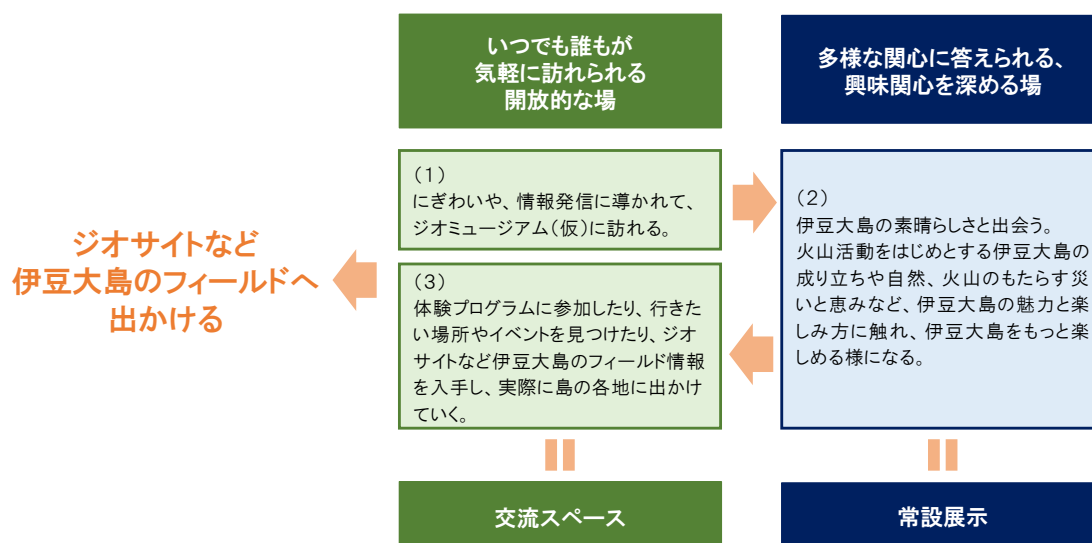
(5) 伊豆大島の人々とともに成長、発展する展示

伊豆大島の魅力や楽しみ方に関する情報は、ジオパークの推進と共に、日々変化し増えていきます。本展示は、ジオパーク推進活動の成果や、伊豆大島の火山活動や環境の変化などを随時展示に反映できる様、内容を更新、発展させ、成長できるしくみをもたせます。

- ・伊豆大島の自然や火山活動による環境の変化に対応し、内容を成長させる展示
- ・ジオガイドやおもてなしの担い手の方々の活動成果を反映できる展示
- ・伊豆大島の島民や、伊豆大島ファンの方々も参加できる展示

(6) 展示とコミュニケーションの体験フロー

より多くの利用者にいつでも気軽に訪れていただくために、無料で利用できる開放的な場を入り口近くに大きく設け、伊豆大島ジオパーク全体のガイダンス情報を提供したり、気軽に参加できる体験プログラムなどを行う場を計画します。無料空間で人々の交流とにぎわいを醸成し、施設の集客力を高め、好奇心を喚起して有料の常設展示への関心を高める体験フローを計画します。



(7) 誰もが楽しめる展示 (ユニバーサルデザイン)

多様化する来館者に対応するため、ユニバーサルデザインに配慮した展示を目指します。五感で感じる体感型の展示や、実際に手で触れたりする体験型の展示など、言語解説に依存しない展示体験を多く取り入れることで、多くの方が楽しめる展示を目指します。また、施設計画においては、バリアフリーに配慮し、多様な利用者に優しい施設を目指します。

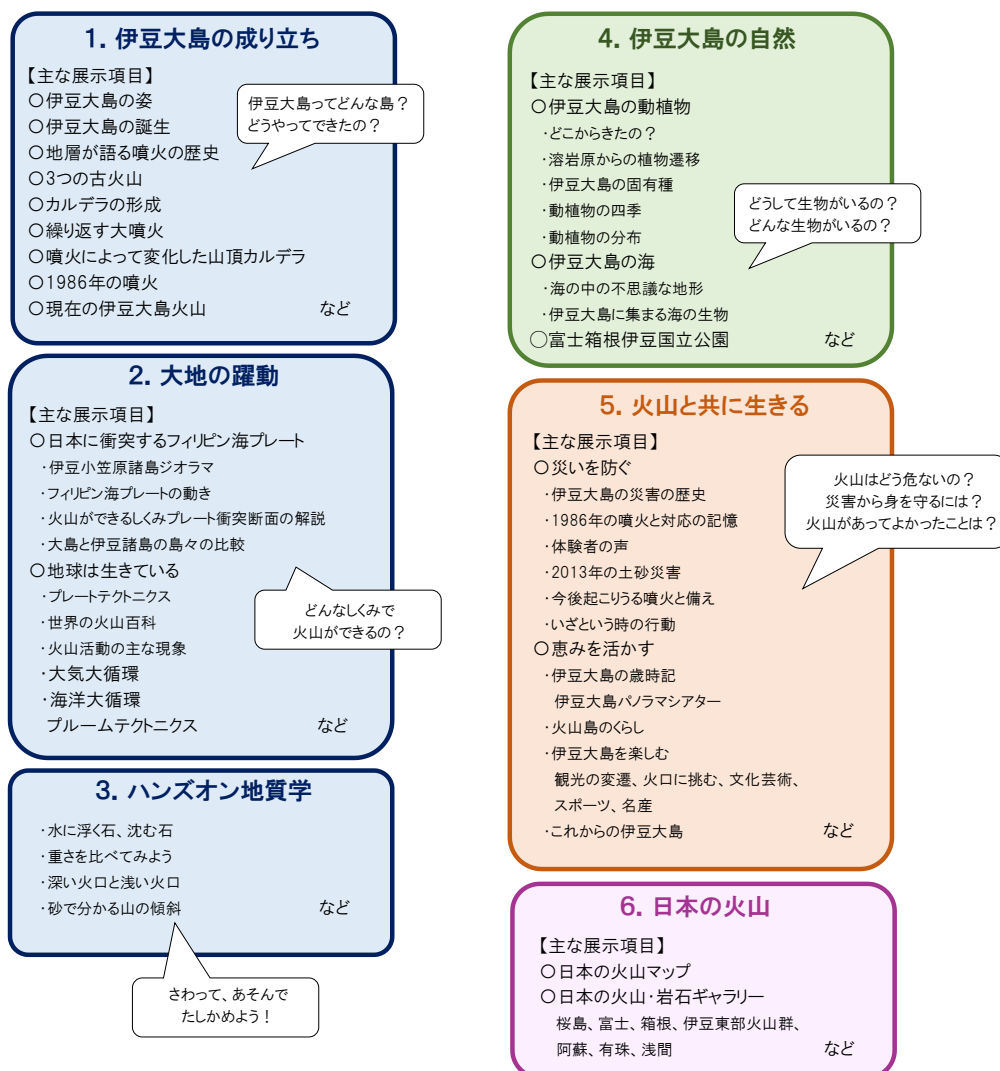
2. 常設展示

ジオの感受性を涵養する臨場感あふれる参加体験型展示

島内のジオサイトを訪れて実際の大地を見る際に、より感動的な体験とするため役立つ情報を提供します。どうしてこのような島ができたのか、火山のメカニズム、そして火山が育んだ伊豆大島の魅力を、臨場感あふれる参加体験型の展示で提供します。

(1) 展示ストーリー

伊豆大島への興味関心を喚起するために、伊豆大島の不思議な地形や景観、火山の様々なメカニズムを誰もが分かりやすい手法で紐解きます。美しく不思議な島の景観と、それを作り上げた自然現象を結びつけながら、大地の活動からはじまりその上で成り立つ環境、生態系、そして人々の生活や文化がお互いに深く関連しあっていることを実感してもらいます。なお、各エリア等の名称設定は仮設定とし、改めて検討する必要があります。



エリア0. 導入アプローチ

来館者に気持ちを切り替えてもらい、火山島である伊豆大島の不思議と魅力に出会う心の準備をしてもらいます。伊豆大島のどんなところに注目して欲しいか、火山の躍動や伊豆大島ならではの壮大な景観を象徴的なインスタレーション映像で紹介し、これから始まる展示へ期待感を高めます。

エリア1. 伊豆大島の成り立ち

伊豆大島がどんな島なのか、他の島とどう違うのか、どのような巨大な力がこのような島を作り上げたのか、実際にフィールドで、目で見て確認できる景観から少しずつ時間と空間を広げ、地球規模の大地の活動へと来館者を導きます。

① 伊豆大島の姿

まずは、伊豆大島の全体像をつかんでもらいます。そのために伊豆大島の姿を10,000分の1の縮尺のジオラマで精巧に再現します。このジオラマにより、火山の島である伊豆大島がどのような姿であるかを、概観的に知ってもらいます。ここで常設展示の内容のインデックスも提供し、見たいことや学びたいことを確認してもらいます。

② 伊豆大島の誕生

海底から伊豆大島が誕生し、繰り返す噴火で大地を積み上げてきたことを伝えます。映像や模型を駆使し、立体的に分かりやすく解説します。

<扱う項目>

- ・伊豆大島の誕生映像
- ・伊豆大島の誕生ステップ模型
- ・伊豆大島火山の年表 など

伊豆大島の誕生ステップイメージ



3つの火山



海底火山の噴火



火山島の成立



カルデラの形成



伊豆大島の原型



現在に続く姿

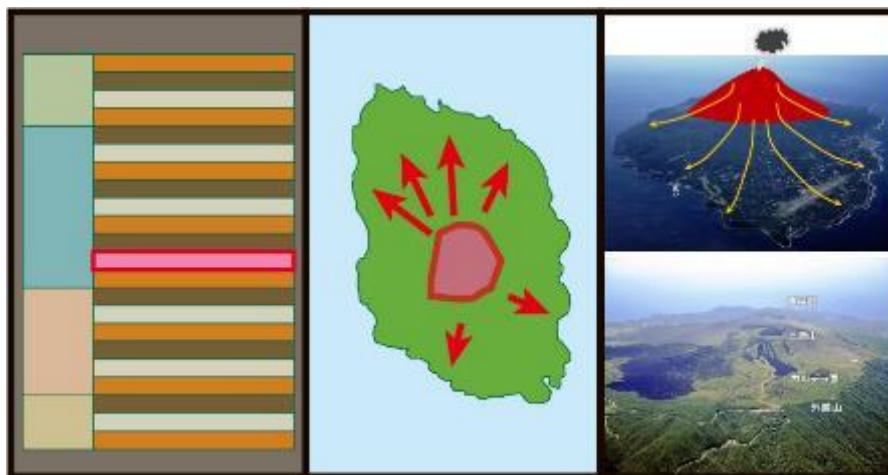
③ 地層が語る噴火の歴史

伊豆大島火山の大きな特徴として、同じ火口から何度も噴火を繰り返して大きな火山体を成長させる複成火山であることを紹介します。また、その証拠を地層の重なりから読み取れることを紹介します。数万年間におよぶ噴火の履歴と、どこにどのように溶岩が形成されてきたのか、地層とともに映像や写真を駆使して解説します。

<扱う項目>

- ・度重なる噴火の履歴
- ・新期大島層群(新規地層断面剥ぎ取り)
- ・古期大島層群(既存地層断面剥ぎ取り)
- ・降下火砕物による噴火史の研究 など

コンテンツ展開イメージ



噴火が記された地層

噴火の場所と溶岩

できた景観

④ 3つの古火山

今からおよそ100万年前から数10万年前にあったと思われる、3つの火山について紹介します。活動を終わると風雨や海に侵食されて崩れていきましたが、今でも見られる残骸を通して、かつての姿を想像してもらいます。

<扱う項目>

- ・筆島火山・行者窟火山・岡田火山 など

⑤ カルデラの形成

およそ 1,700 年前、高さ 1,000m ほどある伊豆大島火山は、破壊的な大規模噴火を起こし、山頂部が陥没してカルデラができました。いまでは想像するのが難しい、伊豆大島火山の姿や、大規模噴火とその爪痕を紹介します。

<扱う項目>

- ・S2 3～4 世紀の大規模噴火とカルデラ形成
- ・S1 4～5 世紀の大規模噴火 など

⑥ 繰り返す大噴火

大噴火を繰り返す伊豆大島火山。波浮港、元町溶岩、溶岩扇状地、三原山ができた安永の大噴火など、現在も見ることができる大規模な火山活動の証拠と、噴火の歴史を紹介します。

<扱う項目>

- ・赤ダレの形成
- ・波浮港の形成
- ・元町溶岩流
- ・差木地の溶岩
- ・サクラ株
- ・溶岩扇状地
- ・せめぎあう火山と海
- ・三原山ができた安永の大噴火 など

⑦ 噴火によって変化した山頂カルデラ

安永の大噴火以降も度々続く中規模噴火による山頂カルデラの変化を紹介します。中央火孔の推移、三原新山の誕生、カルデラ床への溶岩流流出、流れた溶岩の上に復活する植物など、現在でも山を歩くと見られる光景の原因を解説します。ジオガイドの方々の協力を得ながら、ツアーで見ることができる様々な現象についても解説していきます。

<扱う項目>

- ・安永の大噴火以降の中規模噴火
- ・中央火孔の推移
- ・三原新山の誕生
- ・カルデラ内の溶岩流
- ・砂漠の現象
- ・植物の回復
- ・溶岩灰皿 など

⑧ 1986年の噴火

安永の大噴火以降約200年間、カルデラ内のみで収まっていた噴火であるが、1986年の噴火では外輪山の外側でも割れ目噴火が発生し、住宅地の近くまで溶岩流が流下したことや、島南東部でも亀裂が発生したため、1万人もの全島民が避難しました。日本でも珍しい、粘り気の弱いマグマが噴出する伊豆大島火山の特徴や、島全体がひとつの活火山であることをしっかりと伝えます。

<扱う項目>

- ・噴火の経過
- ・粘り気の弱いマグマと溶岩流
- ・割れ目噴火のしくみ
- ・噴火前と噴火後の比較 など

⑨ 現在の伊豆大島火山

伊豆大島火山は、現在も活動している火山です。地盤が膨らんでないか、火山性地震が起きてないか、噴煙が上がっていないか、日々変化する、現在の伊豆大島火山の姿を紹介していきます。容易に情報を更新できる様に、映像や、取替え可能なパネルなどの可変展示を導入します。

エリア2. 大地の躍動

「伊豆大島の成り立ち」で見てきた、実際の島の風景と大地の活動の関わりの背後にある、普段は目に見えない大規模な地球の活動を、迫力ある映像や模型で視覚化しながら紹介していきます。伊豆諸島の他の島々とプレート運動の関わりから、地球全体の物質循環まで、火山学および関連する地球科学をわかりやすく解説します。

① 日本に衝突するフィリピン海プレート

伊豆大島火山は、単体で成立しているわけではなく、伊豆諸島、小笠原諸島と連なって、日本を取り巻く複雑なプレートの動きによって誕生してきたことを紹介します。1/400,000のジオラマで体感的にプレートの広がりを見せ、ダイナミックな映像で動きを解説し、スケールの大きな地球の活動を実感してもらいます。また、伊豆諸島の他の火山島と、砂の色、山の形、溶岩の性質などの比較を通してさらに伊豆大島の特徴を掘り下げます。

<扱う項目>

- ・伊豆小笠原諸島ジオラマ
- ・フィリピン海プレートの動き大型映像
- ・火山が生まれるしくみプレート衝突断面の解説
- ・大島と伊豆諸島の島々の比較(模型・グラフィック)など

伊豆小笠原諸島ジオラマイメージ



② 地球は生きている

日本の周囲だけでなく、地球全体のプレートの配置や動きと、それに伴う世界の火山を紹介します。また、火山活動が起こす様々な現象を、伊豆大島で起きる現象と比較しながら紹介します。現火山博物館の豊富なコンテンツも活用しながら展開します。

<扱う項目>

- ・大型地球儀
- ・プレートテクトニクス
- ・世界の火山百科
- ・火山活動の様々な現象
- ・大気大循環
- ・海洋大循環
- ・ブルームテクトニクス など

エリア3. ハンズオン地質学

子どもたちをはじめ、誰でも手で触ったり、動かして見たりして、火山に関する地質学の現象などを実際に体験しながら知ることができるハンズオン展示を導入します。

〈扱う項目〉

- ・水に浮く石、沈む石
- ・持ってみて重さを比較しよう
- ・深い火口と浅い火口
- ・砂でわかる山の傾斜 など

エリア4. 伊豆大島の自然

繰り返す噴火でできた地形、溶岩が流れた後にやってくる植物、風や波が運ぶ生き物や、自分で飛んでくる生き物など、火山島ならではの生態系や気象特性を紹介し、伊豆大島の風景や生き物の不思議を伝えます。

① 伊豆大島の動植物

海底からできた島に、どうやって動植物がやってきたのか。なにもない溶岩の上にどうやって生態系が育つのか、火山島特有の自然環境のしくみを解説します。あわせて椿や桜、ススキなど、季節ごとに動植物がつくりあげる美しい情景も楽しんでもらいます。島の公園や各椿園、ネイチャーガイド、レンジャーの方々などの協力を仰ぎ、豊かな自然を紹介していきます。

<扱う項目>

- ・どこからきたの？
- ・溶岩原からの植物遷移
- ・伊豆大島の固有種
- ・動植物の四季
- ・動植物の分布

② 伊豆大島の海

深い海から立ち上がる独特の地形を、その美しさと、成因の両面から紹介していきます。そして黒潮の大きな影響のもと、そこに集まる豊かな生物たちも紹介していきます。島のダイビングガイド、漁業従事者の方々などにも協力を仰ぎ、海の魅力を余すところなく表現します。

<扱う項目>

- ・海の中の不思議な地形
- ・伊豆大島周辺にあつまる海の生き物 など

③ 富士箱根伊豆国立公園

伊豆大島も含まれている富士箱根伊豆国立公園を紹介します。太平洋から富士山まで、一連の大地の活動がつながっていることを感じてもらいます。

エリア5. 火山と共に生きる

ここまでで、大地の活動が作り出した地形の上に、動植物が作りあげた自然環境を伝えてきました。人間はこうした環境の中で長年かけて暮らしを作り上げてきました。噴火をはじめとする自然の脅威もあれば、火山の島ならではの恵みもあります。ここではその災いと恵み双方を紹介し、人々が作り上げて来た生活文化と大地の深いつながりに気づいてもらいます。

① 災いを防ぐ

ア 伊豆大島の災害の歴史

伊豆大島ではこれまで、様々な災害が起きてきました。2013年土砂災害や1986年噴火だけでなく、1978年伊豆大島近海地震や、1923年大正型関東地震津波災害など、伊豆大島で過去に起きた災害を紹介し、今後どのような災害が起こりうるかを考えるヒントとします。

イ 1986年の噴火と対応の記憶

「伊豆大島のなり立ち」では自然科学の視点で1986年の噴火を解説しましたが、こちらでは、島の人々の視点から、1986年の噴火を振り返ります。

(ア) 1986年噴火の経緯

当初は観光客やマスコミ取材が集まっていたところから、11月21日の噴火の激化による状況の一変、全島避難に至る過程を紹介します。

(イ) 街に迫る災害

大型写真グラフィックで、外輪山北西山腹の割れ目噴火の様子、元町方向へ流れる溶岩などを紹介します。

(ウ) 避難の経緯

「東京都伊豆大島・三原山噴火対策会議」から「三原山噴火災害対策本部」に切り替わり、刻々と変化する状況に合わせて拡大していく避難指示、各地区からの輸送や、多くの船舶の協力など、一人も犠牲者なく避難が完了した経緯を紹介します。

(エ) 避難生活と島への帰還

東京都や静岡県内の74箇所の避難所へ避難や、避難中の島内巡回、一時帰島など、全面帰島までの1ヶ月の避難生活を紹介します。

ウ 2013年の土砂災害

2013年土砂災害の概要と、復興の歩みを紹介します。同じような悲劇を繰り返さないためにどのような取り組みができるか共に考えるきっかけとなる展示をめざします。伊豆大島ジオミュージアムの背後では、2013年の土砂災害が起きた山腹を見ることができます。展望スペースを活用し風景とともに、紹介することができます。

エ 体験者の声

災害を体験した方々に当時の様子取材し、記録として後世に伝えていきます。展示では映像等で紹介していきます。

オ 今後起こりうる噴火と備え：プロジェクションマッピング模型

伊豆大島火山は観測体制が充実していて、研究が進んでいる火山のひとつです。それでも火山の噴火現象にはまだ分からないこともあります。これまでの災害から学んだ教訓を元に現在可能な範囲でどのような対応が可能なのかを紹介します。伊豆大島の防災ジオラマに各種映像を投影して、分かりやすく展開します。

(ア) 今後起こりうる噴火のシナリオ

過去の噴火や研究成果にもとづいて、今後予想される噴火の前触れ現象と噴火の推移が気象庁などにより想定されています。ここでは、防災活動のもととなる噴火シナリオを紹介します。

(イ) 火山を観測する観測網

伊豆大島では、火山の活動を監視するために、多数の研究機関が観測機器を設置しています。前兆現象などの異常をいち早く発見し、火山防災に役立てるための取り組みを紹介します。

(ウ) ハザードマップ

大きい噴石や溶岩流、火口が発生しやすい場所など、噴火の影響が及ぶ恐れのある範囲を示したハザードマップを紹介します。

(エ) 噴火警戒レベルと対応

伊豆大島の噴火警戒レベルがどのように設定されているのか、警戒レベルごとの立入り規制区域の違いなどを紹介します。

カ いざという時の行動

もしも噴火が始まった時はどうすればいいのか、情報入手の方法や、実際の避難行動などの防災情報を提供します

② 恵みを活かす

伊豆大島火山は、日本でも珍しいタイプの火山です。火山活動が生み出した独自の地形や自然からは、様々な恩恵を受けています。もしかしたらまだ活用できていない恵みもあるかもしれません。ここでは、伊豆大島の自然がもたらす様々な恵みを紹介し、伊豆大島をもっと楽しむヒントとして活用していただきます。

ア 伊豆大島の歳時記

四季折々の風景および伊豆大島ジオパークの魅力を味わうために最適な祭りやイベントなどを紹介します。

イ 伊豆大島パノラマシアター

伊豆大島からは遠くの富士山や伊豆諸島の島々など、様々な素晴らしい景観がみられます。しかし、天候に左右されたり、季節によって見られなかったりするため、旅行者にとってはいつでも見られるとは限りません。ここでは、いつ来ても伊豆大島の様々な季節、時間帯の絶景を臨場感あふれる映像で見られるように、ワイドスクリーンのパノラマシアターを設置します。固定的な映像ソフトを上映するのではなく、上映ソフトを運営管理者が容易に更新できるしくみにし、いつ訪れても新鮮な情景を映し出します。また、今後期待される、ドローン撮影が組み合わせられたツアーの誘致など、ジオパーク推進活動の運営とも連携できるシアターを目指します。

ウ 火山島のくらし

火山の島という独自の環境の中で培われた伊豆大島独自の生活文化、貴重な水をめぐむる努力をはじめとする、火山島ならではの暮らしの工夫を紹介します。

エ 伊豆大島を楽しむ

(ア) 観光の変遷

海外旅行が一般的になる前、伊豆大島は国内からより多くの観光客が訪れていました。茶屋が立ち並ぶ三原山登山道、ラクダ観光、滑走台などのユニークな観光施策で盛り上がった当時の大島から、火山の島大島を楽しむ大島の人の気風を紹介します。

(イ) 火口に挑む

今では危険なため行われませんが、かつては、火口探検が行われていた時期がありました。読売新聞社の火口探検および、火口の深部を見たい・溶岩をすくいたいという科学への好奇心から実行された早稲田大学探検部による火口探検の様子を紹介します。

(ウ) 伊豆大島と文化・芸術

棟方志功や山下清による絵画、野口雨情による「波浮の港」などの歌、文人による詩など、伊豆大島に刺激を受けた芸術家たちの作品から、大島の魅力に迫ります。

(エ) 伊豆大島のスポーツ・アクティビティ

サイクリングやダイビングなど、伊豆大島の地形的特徴を活用した様々なアクティビティと、伊豆大島火山のつながりを紹介し、各アクティビティの持続可能な利活用の促進に貢献します。

(オ) 大島の名産

自生するツバキの実から絞る椿油、海水から作る塩、豊富な海産物を生かした食文化、乳牛が好む気候や植物のおかげでかつて栄えた酪農製品など火山の島ならではの土地の特徴と結びついた、伊豆大島の名産品や食文化を紹介します。

オ これからの伊豆大島

伊豆大島ジオパークでは、「地球が活動している」ことを体感できるジオツーリズムを推進するだけでなく、それらを支える持続可能な地域社会の確立も目指しています。地球科学的な価値を持つ大地の遺産を保全し、教育やツーリズムに活用しながら、持続可能な開発を進めることを大事にしています。そうしたジオパーク推進の様々な取り組みを紹介し、これからの伊豆大島をもっと魅力的な島にしていく想いと取り組みを共有していきます。

エリア6. 日本の火山

伊豆大島火山から離れ、日本の各地の火山へと興味関心を広げてもらいます。現火山博物館の貴重な岩石標本などを継承・活用し、伊豆大島火山と各地の火山の違いを知って、より伊豆大島の独自性への理解を深めてもらいます。

① 日本の火山マップ

大きな日本地図に、日本全国の火山の分布を展開します。火山活動の有無、プレートとの関わりなどを紹介し、日本が世界有数の火山国であることを実感してもらいます。

② 日本の火山・岩石ギャラリー

桜島、富士、箱根、伊豆東部火山群、阿蘇、有珠、浅間など、現火山博物館でも紹介している、日本各地の代表的な火山の姿、特徴と、岩石標本を合わせて展示します。現火山博物館の貴重な標本や研究成果を継承していきます。

3. 交流スペース

いつでも気軽に訪れて情報収集・交流が楽しめる場

本計画では、より多くの方々に利用してもらえるよう、常設展示は有料空間として2階に設置し、1階ではいつでも気軽に訪れて情報収集や交流を楽しめる場としての交流スペースを無料空間として設置させます。伊豆大島ジオパークに関するガイダンスや、火山に関するイベント、ワークショップ、工作教室や実験教室、子どもが遊びながら火山に親しむことができるなど充実したコンテンツを検討します。

エリア1. エントランスゾーン「御神火ひろば」

① 伊豆大島ジオパークフロアマップ

エントランスの吹き抜け空間を活用して、床面に伊豆大島の大きな航空写真を配置します。来館者には、伊豆大島全体への興味関心を喚起したり、自分の知りたいことを見つけてもらうことができます。来館を終えて出かける方々には、展示で見た景観はどこに行けば見られるかを確認してもらうことで、これからの島内巡りの計画をたてることに役立ててもらい、地図の上を歩ける体験で島内周遊を促します。

② 火山 TODAY

伊豆大島火山だけでなく、より幅広く大地の活動と私たちのつながりを感じてもらうために、日本各地の火山の最新情報などを紹介していく展示スペースを設置します。容易に情報を更新できるよう、映像や掲示板などを備えます。

③ 日本ジオパークネットワーク紹介コーナー

ジオパーク認定地域はジオパークネットワークの一員として、自地域のジオパークのみではなくジオパーク全体の認知度や質の向上に貢献していく責務があります。ここでは日本のジオパークネットワークの活動を紹介し、連携・相乗効果でジオパーク全体の振興を図ります。

④ 施設概要・館内案内

ジオミュージアム（仮）の館内案内、火山博物館設立の経緯からジオミュージアム（仮）にリニューアルするまでの沿革や、施設の方針などを伝え、ここがどのような場所かを伝えます。

エリア 2. 交流・体験ゾーン「マグマルシェ(仮)」

島外からの観光客の皆様には島の魅力を伝える参加体験型のプログラムを、島民の皆様には、より島に愛着と誇りを持っていただくための学びや遊びのプログラムを提供する、活動型の交流・体験ゾーンを計画します。様々な方々が伊豆大島の魅力を持ち寄り披露し合う「市場」というイメージで、マグマ+マルシェ=マグマルシェという名称を検討します。

① 受付

2階常設展示のチケット販売と入場管理、ミュージアムグッズの販売、音声ガイドの貸し出し等を行うスペース。運営動線を考慮して、少ない人員でも運用可能なように工夫します。

② ジオガイドステーション

現在のジオパークコーナーを拡大し、伊豆大島ジオパークをたっぷり楽しんでいただくための情報発信スペース。ジオガイドの方々と連携し、実際にジオサイトをはじめとする島のみどころを巡るために必要な情報提供をおこないます。ツアーの待ち合わせに利用していただいたり、参加したいイベントを見つけたりして、伊豆大島滞在を充実させていただきます。

③ ミュージアムショップ

ミュージアムショップは「ミュージアムのテイクアウト」という機能が求められます。展示で紹介した情報の一部は、実際に伊豆大島ジオパークを巡りながら見ていただけるようコンパクトにまとめたグッズとして販売することも考えられます。合わせて、各ジオサイトを回るときに役立つグッズ、防災グッズ、島のお土産など、島を楽しんでいただくための展開を検討していきます。

④ 御神火ギャラリー（企画展示室）

伊豆大島や火山に関する企画展示を開催するスペース。エントランスに近く誰でも気軽に訪れやすい場所に計画します。伊豆大島の火山や自然に関する企画展、ジオパーク推進活動の成果や「火と石と水のアトリエ」の活動成果の展示など、いつ来ても新鮮な話題を提供します。

⑤ 火と石と水のアトリエ（体験教室・工作室）

火と石と水のアトリエは、来館者に様々な参加体験プログラムを提供するための、体験教室・工作室です。地質学に関する手軽な実験、ジオや火山をテーマにした工作、ものづくり体験、ジオスイーツなどの料理教室、セミナーの開催など、多様な活用に対応する柔軟な空間です。

⑥ 休憩スペース

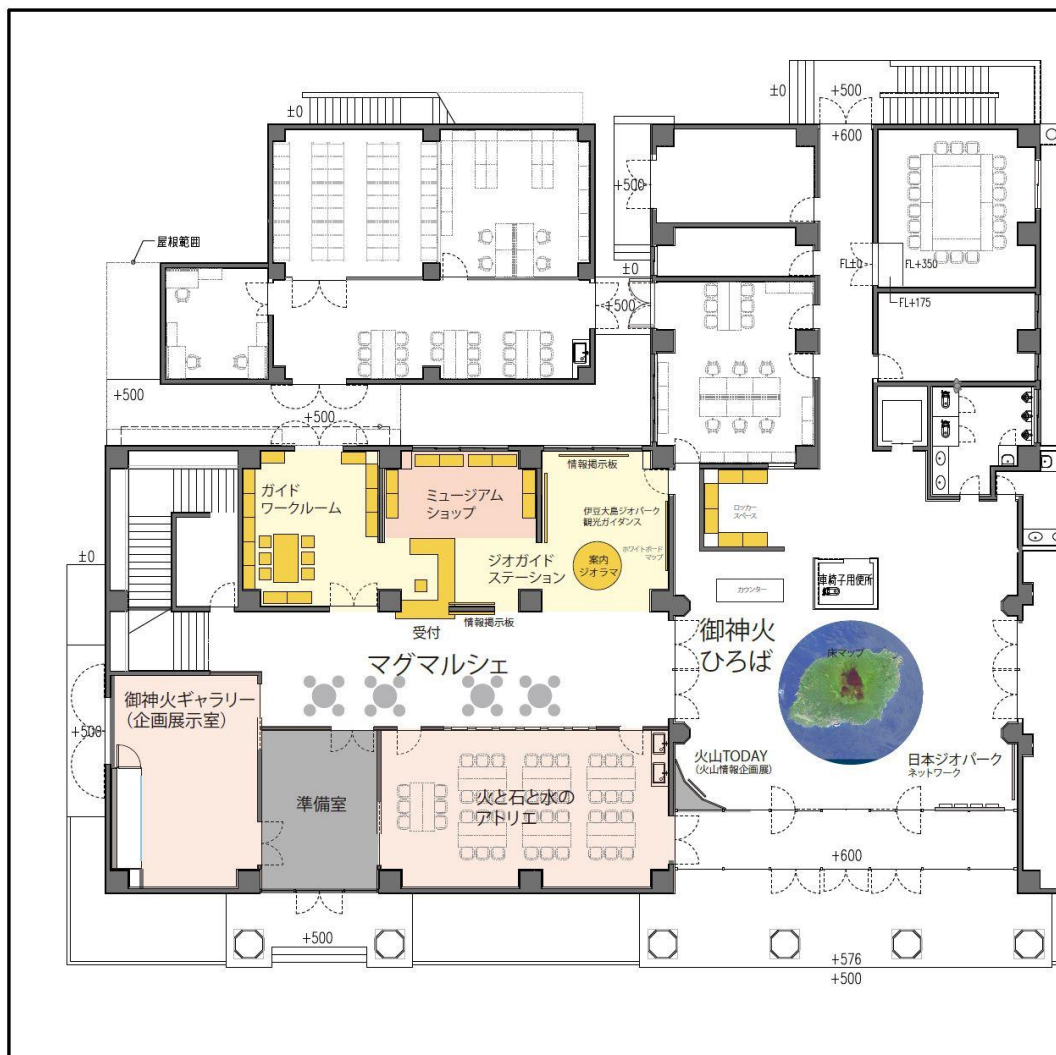
マグマルシェの中央に、軽飲食ができる休憩スペースを設けます。参加プログラムの開催時間までの待ち合わせや時間調整に利用していただいたり、島の各所に出かける計画を立てたり、ゆっくり座ってくつろいで、次の活動につなげていただきます。

4. ゾーニング及び動線計画

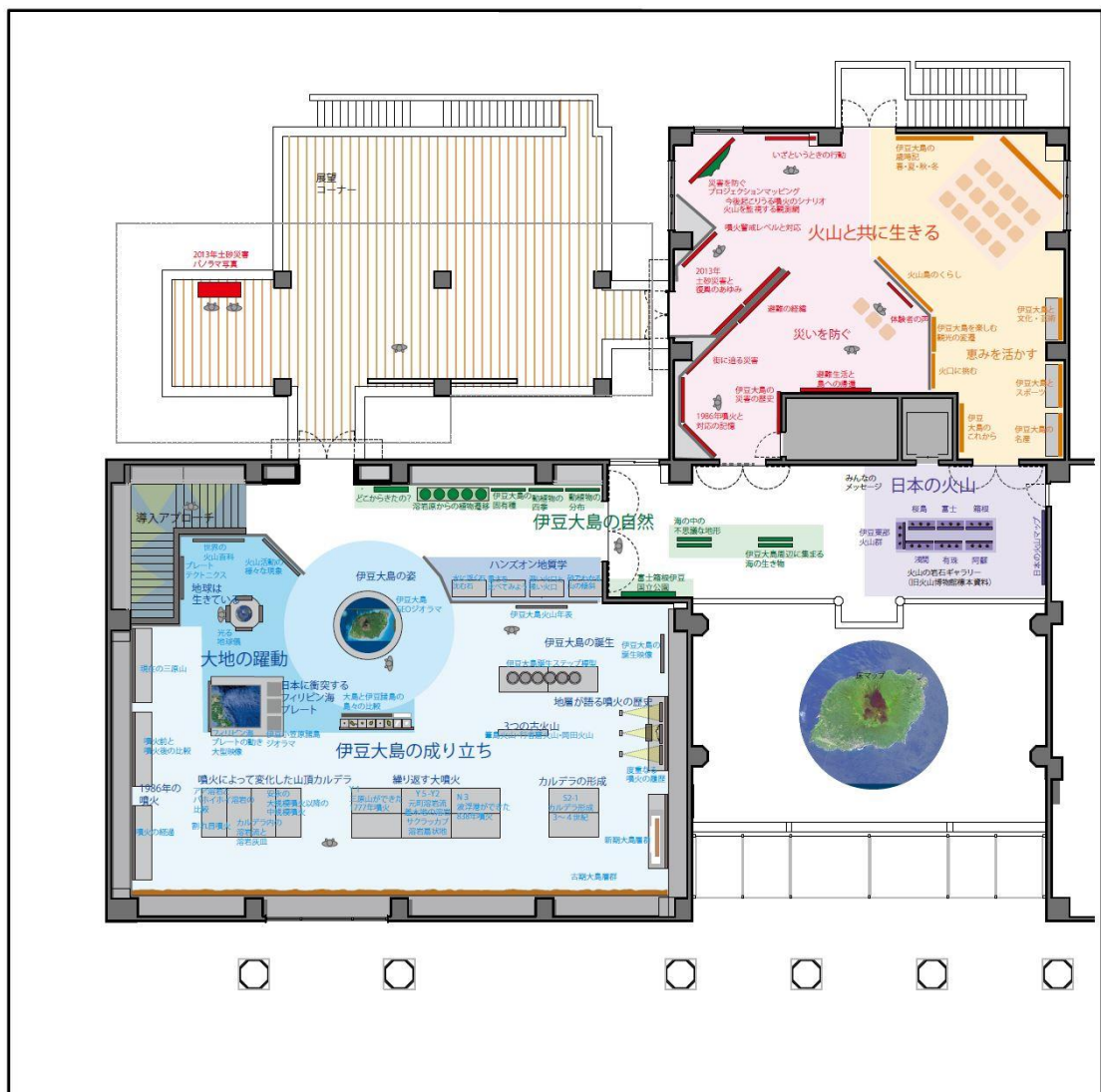
1階は無料の交流ゾーン・2階は有料の常設展示とわかりやすく区分

展示は、伊豆大島の成り立ち、伊豆大島の自然、
火山と共に生きる、日本の火山と緩やかに一筆書きで見せることで、
伊豆大島の魅力をわかりやすく訴求

1階



2階

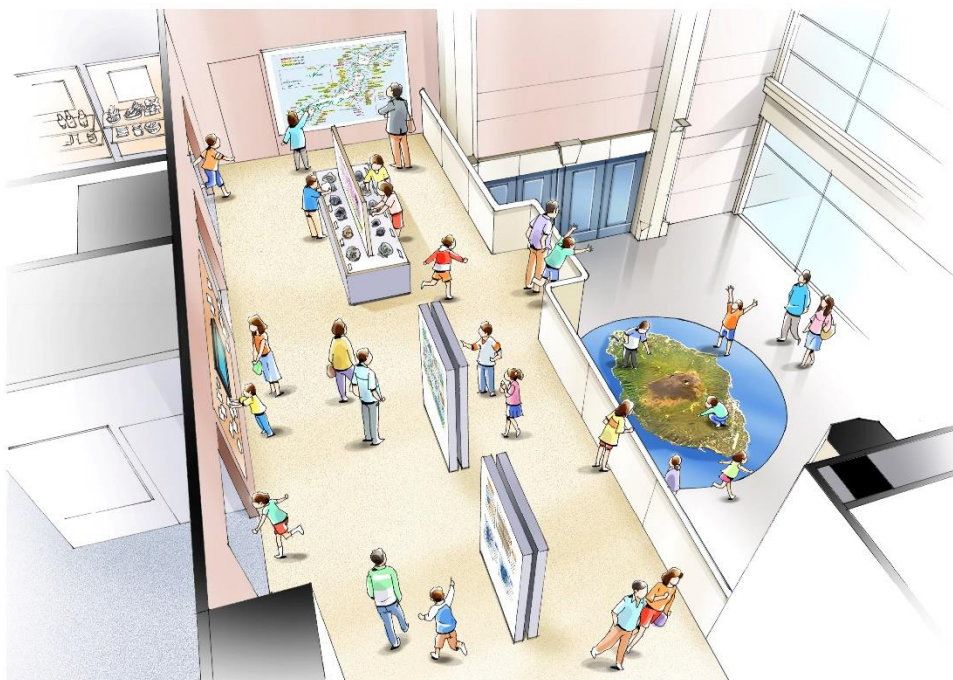


■各ゾーンのイメージ

1階 マグマルシェ



1階 床航空写真 2階 伊豆大島の自然、日本の火山



2階 伊豆大島の成り立ち、大地の躍動、ハンズオン地質学、伊豆大島の自然



2階 火山と共に生きる



第4章 施設計画

1. 施設計画

利用者に開かれた施設とするため、気軽に訪れやすい空間配置とし、敷地形状、外部環境との連続性を意識

(1) 立地条件

所在地：東京都大島町元町字神田屋敷 617 番

用途地域：その他地域

建蔽率：70%

容積率：200%

地域地区：一部敷地が富士箱根国立公園第三種地域

建物高さ 13m 以下、建築面積 2000 m² 以下

高度地区：指定なし

敷地面積：18,713 m²

アクセス：「火山博物館前」バス停下車すぐ、元町港より車で 3 分

既存建物 建築面積 1,157 m²

延床面積 1,818 m²

構造階数 鉄骨鉄筋コンクリート造 地上 3 階

増築建物 建築面積 171 m²

延床面積 184 m²

構造階数 鉄筋コンクリート造 地上 2 階

(2 階はテラスだが屋内用途で床面積ありのため、2 階扱いとなる)

① 大島町の用途地域図



(2) 既存建物改修と増築建物の考え方

① 既存建物改修

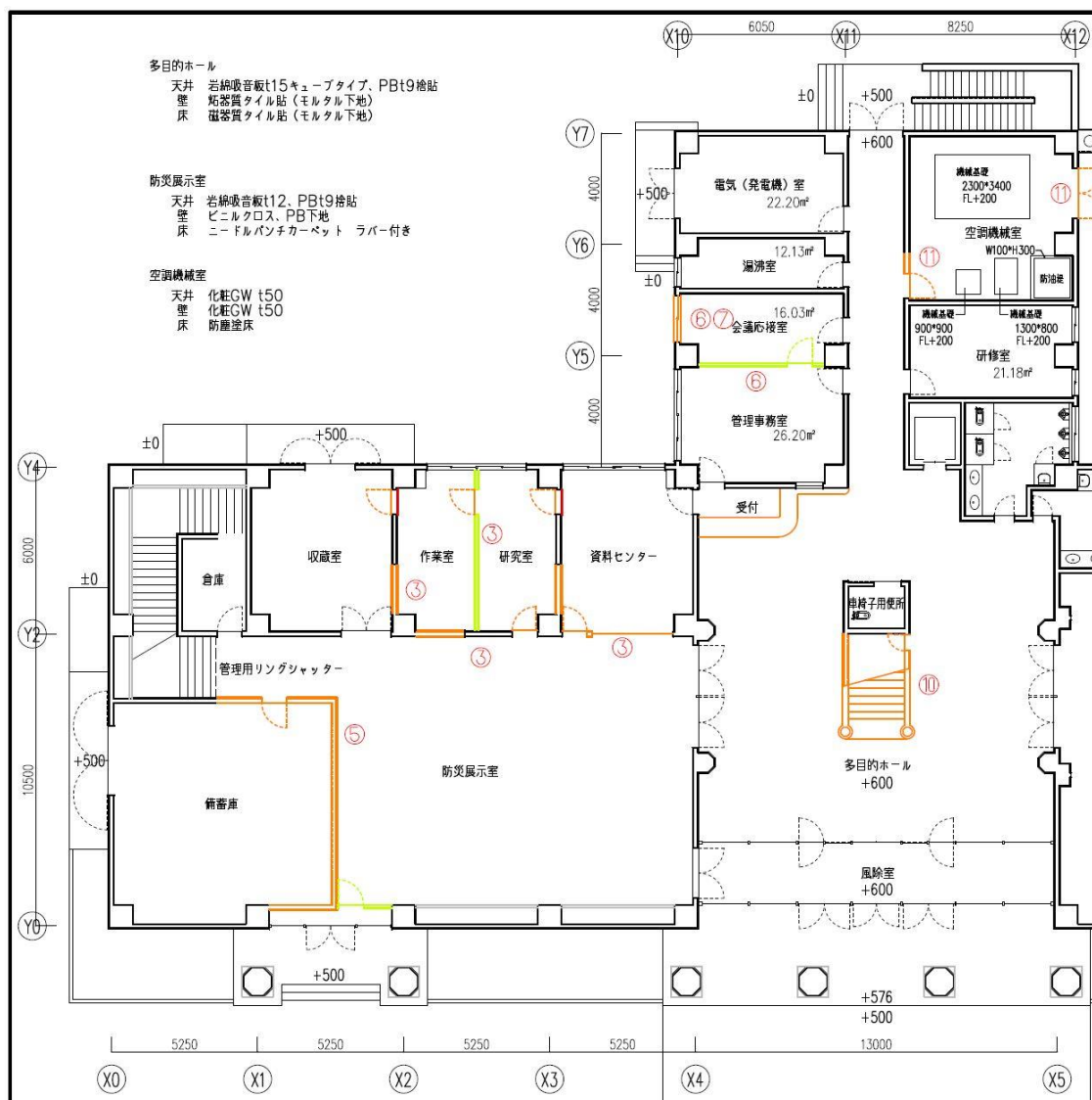
- ア 1階左翼棟部分の、収蔵室、作業室、研究室、資料センターが果たしていた機能を増築建物1階に移動します。
- イ 上記移動に伴い、防災展示室との間の壁面について、構造に影響のない範囲で開口し、同時に備蓄庫の壁面を撤去し、無料利用可能な交流スペースとします。
- ウ 交流スペースに、新たに企画展示室、アトリエ、準備室を設置します。
- エ 1階中央棟部分の、会議応接室と管理事務室の間の壁を撤去し、より広く柔軟性のある事務室とします。
- オ 1階空調機械室の機械を撤去し会議室へ改修します。
- カ 1階多目的ホールの階段を撤去し、開放的なエントランスホールとします。
- キ 2階ギャラリー、階段を撤去した部分に床を拡張します。
- ク 2階火山展示室Bはシアターを撤去し、一室とします。
- ケ 2階展示室Aは造作床を撤去しフラットな空間(約340㎡)とします。
- コ 火山展示室A、火山展示室Bの2か所から、エキスパンションジョイントを経由して増築建物屋上デッキに渡れるように接続します。

② 増築建物新築

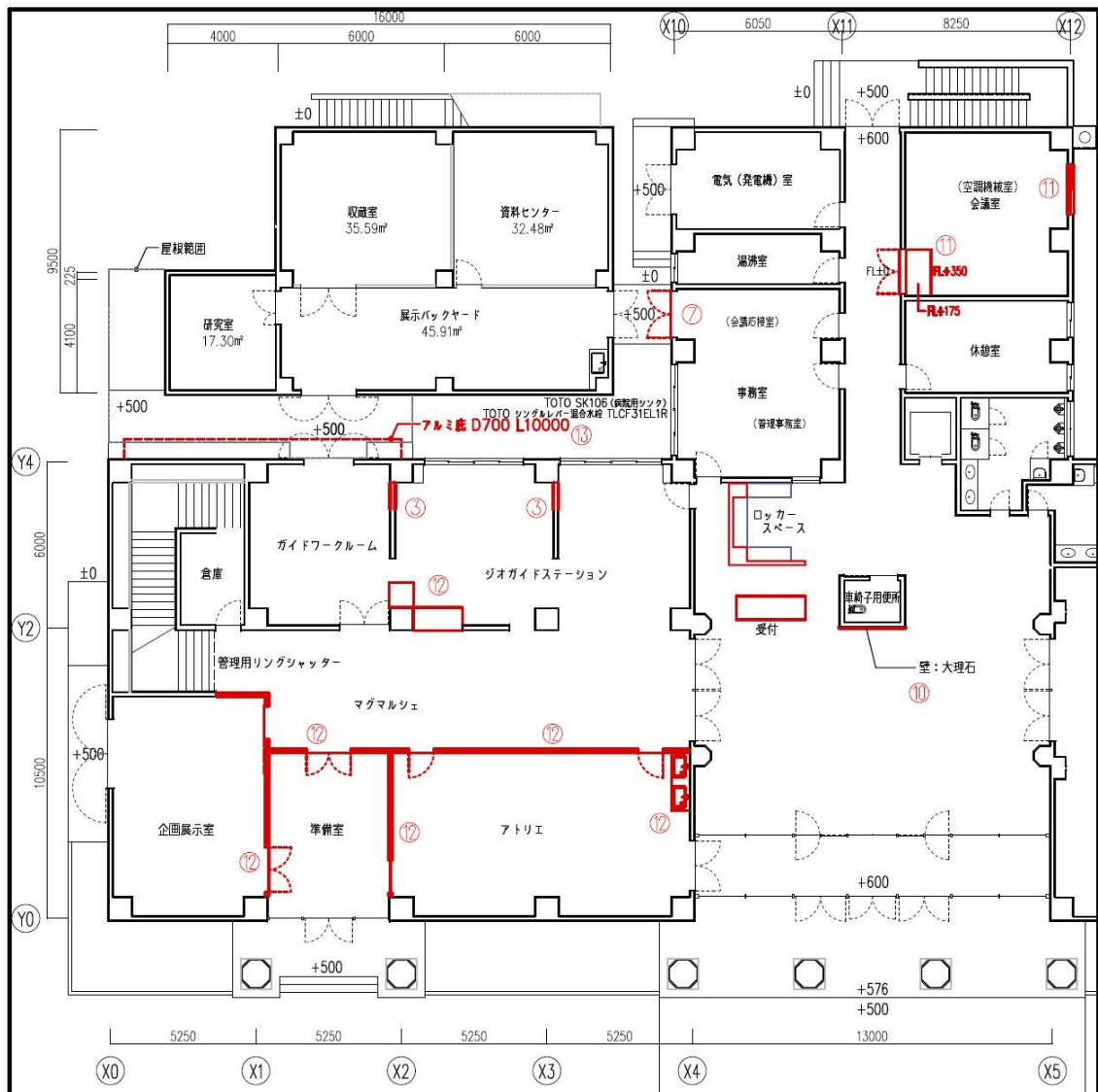
- ア 1階の既存建物にあったバックヤード機能を移設し、研究室、収蔵室、資料センター、作業スペースを設置します。
- イ 搬入経路として、建物北側にトラックを止めて搬出入できるよう、建物床と高さを合わせたプラットホームを設置します。プラットホーム上は庇を設置します。
- ウ 作業スペースから2方向に既存建物と接続します。管理事務室と会議応接室を一体とした事務室と、旧収蔵庫(新ワークルーム)のそれぞれに、エキスパンションジョイント(約5㎡)を経由して接続します。
- エ 2階は、展望スペース(雨除け付き屋上)、伊豆大島火山の外輪山が望める空間とします。
- オ 2階展望スペースから2方向に既存建物と接続します。火山展示室A、火山展示室Bのそれぞれに、エキスパンションジョイント(約5㎡)を経由して接続します。

■ 1階改修前と改修後

改修前

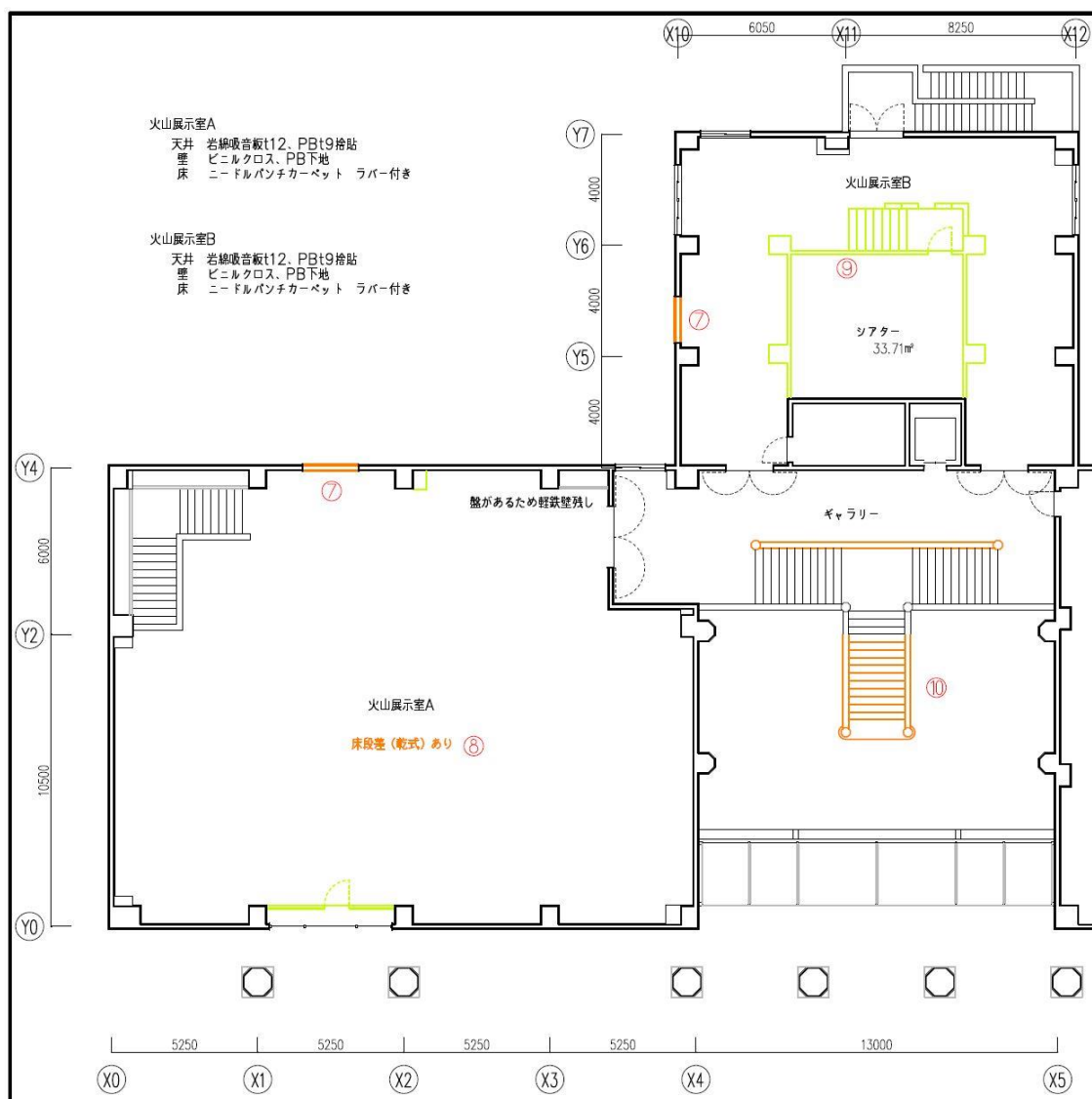


改修後



■ 2階改修前と改修後

改修前



改修後



(3) 平面計画

① 既存建物改修

ア 1階 多目的ホール

階段を撤去し、空間を広くし、「御神火ひろば」となります。

イ 1階 防災展示室

交流スペースとして、「マグマルシェ」を中心とし、周囲に交流・体験機能の諸室を配置します。

「マグマルシェ」「火と石と水のアトリエ」「御神火ギャラリー（企画展示室）」「準備室」「ジオガイドステーション」「ミュージアムショップ」「受付」「ガイドワークルーム」「倉庫」（既）

ウ 1階 管理ゾーン

(ア) 1階中央棟部分の、会議応接室と管理事務室の間の壁を撤去し、より広く柔軟性のある事務室とします。

(イ) 1階空調機械室の機械を撤去し会議室へ改修します。

エ 2階火山展示室 A

(ア) 「伊豆大島の成り立ち」「大地の躍動」「ハンズオン地質学」「伊豆大島の自然」の一部となります。(約 340 m²)

オ 2階火山展示室 B

「火山と共に生きる」となります。

② 増築建物新築 (1階約 164 m²、屋上デッキ 164 m²)

ア 1階

既存建物および、外部との接続として、作業スペースを設置し、ここを中心として、調査研究機能を配置します。

「作業スペース」「研究室」「収蔵庫」「資料センター」

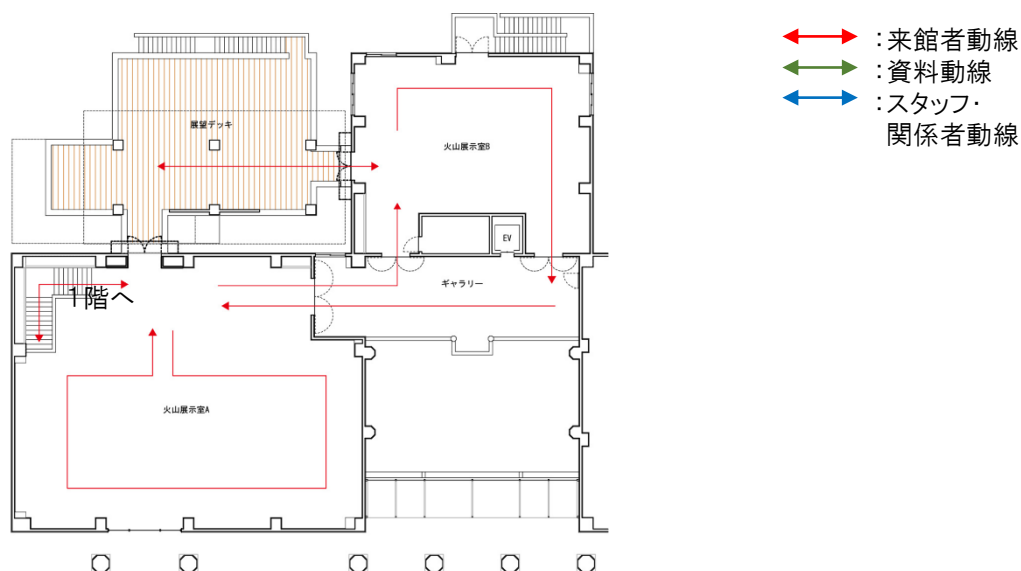
イ 2階

屋上は雨除け付き展望スペースとし、伊豆大島火山の外輪山や 2013 土砂災害の跡を望む空間とします。

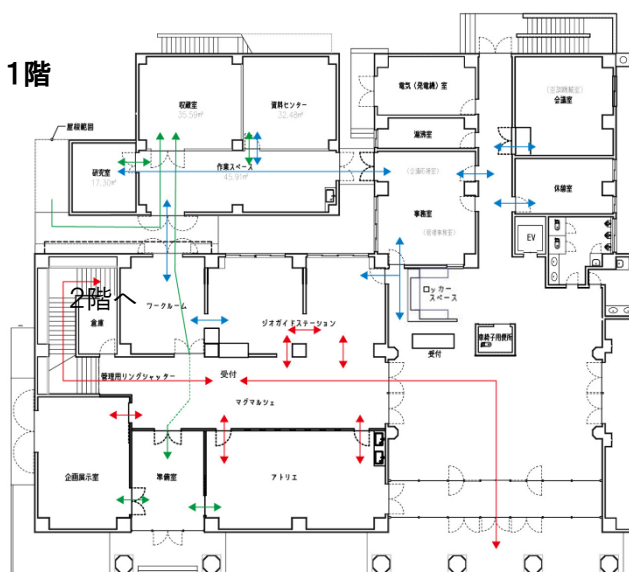
(4) 動線計画

- ① 1階は無料ゾーンとし、エントランスホールから北側の「マグマルシェ」では、様々な体験活動やプログラムを提供します。北側の階段エリアから2階にかけてを有料ゾーンとし、伊豆大島や火山についての展示を展開します。無料ゾーンと有料ゾーンを階層で区別することにより、一般来館者にとってわかりやすく利用しやすい施設とします。
- ② 2階への動線は北側階段を主動線としますが、足の不自由な方や車いす等は、エントランスホールのエレベーターを利用していただきます。
- ③ 団体での来館者を想定し、エントランスホールから体験室への動線を確保します。
- ④ 「来館者動線」「資料搬入、管理動線」を明確に分離します。

2階



1階



(5) 立面計画 断面計画

① 立面計画

増築建物は正面から見たときに、既存建物に隠れる形での配置です。既存建物と一体に見えるようなデザインとします。

② 断面計画

避難安全検証法を前提とした検討をし可能な場合、展示室は圧迫感を与えないために天井を高くします。また、排煙不要となる天井の高さに調整します。

(6) 構造計画

- ・耐震性に優れた構造とします。
- ・経済性に十分配慮した構造形式を検討します。
- ・既存建物と増築建物はエキスパンションジョイントで接続するため、既存遡及などの影響がない形とします。
- ・既存建物において、雑壁（RC）の撤去や階段（RC）の解体などがあるので、基本設計時に構造に影響がないことの再確認をします。

(7) 外構計画

- ・都道から見やすい位置にサインを配置するなど、施設の誘引へとつなげます。
- ・駐車場から施設へのアプローチは、施設への期待感を高めるとともに、訪れるのが楽しくなるような手法が求められます。
- ・ヘリポート部分の広場は現在あまり活用されていないため、イベントなどの開催に柔軟に対応出来るよう、活用方法の検討と水道設備・電気設備などの整備が求められます。

(8) 災害備蓄庫についての検討

- ・島内には、泉津地区・岡田地区・火山博物館・差木地地区にそれぞれ備蓄倉庫があり、また各小中学校にも毛布や食料等の分散備蓄をしております。これにより有事の際には柔軟に対応することが可能です。
- ・ジオミュージアム（仮）の展示室や交流スペース等の機能拡充に伴い、備蓄庫等のスペース確保が難しくなっています。備蓄庫については、場合によっては他の施設への移転などを検討しなくてはならないことが想定されるため、移転検討にあたっては、関係課と調整し綿密に実施していきます。

(9) その他留意事項

① 維持管理にかかるコスト低減への配慮

- ・施設の整備にあたり、合理的・効率的な構造・仕様となるよう建築設計の段階で十分な検討を行います。
- ・計画的で適切な維持管理により施設の長寿命化や修繕費を含むライフサイクルコストの軽減を目指します。

② 環境保全への配慮

- ・省エネルギーに効果のあるデザインや設備を採用し、環境への負荷を低減します。
- ・環境に配慮した資材・物品の調達に努めます。
- ・工事に際して環境への影響の少ない工法、建設機械を採用します。

③ 観光との連携

島外からの来館者に対し、伊豆大島における歴史や風土に関する情報等を提供し、観光施設を含む各施設への周遊を促す機能を備えます。

2. 事業活動に基づく諸室諸元

事業活動に基づいて各部屋の条件を設定

(1) 情報収集・保存活動

① 収蔵室（増築建物 約 35 m²）

・現在の火山博物館に収蔵・展示されている資料の種類・性格から、一般的な博物館における高機能な収蔵庫とは違い、一般の倉庫と同等のグレードとします。

- ・耐火性・耐震性を確保します。
- ・資料センター、研究室との連絡動線に配慮します。
- ・空調管理が出来る設備を備えます。

② 資料センター（増築建物 約 32 m²）

- ・各種資料の整理作業、情報のデータベース構築作業のほか、図書や写真資料、調査・研究の成果等を保管します。
- ・資料収納の書架を配置します。
- ・閲覧、作業のできるデスクを配置します。
- ・空調管理が出来る設備を備えます。
- ・大型資料の撮影が可能な写場機能を検討します。
- ・大版の資料を印刷やスキャンできる機器の配置を検討します。

(2) 調査研究活動

① 研究室（増築建物 約 17 m²）

- ・調査研究用の作業机、PC 電源、LAN 配線設備等を検討します。
- ・施設職員の研究作業のためのデスクを配置します。
- ・監修者、外部研究者、客員研究員、伊豆大島を研究対象とする学生、ジオガイドの方などが一時的に作業できるデスクを配置します。
- ・研究資料を収納する書架を配置します。

② 展示バックヤード（増築建物 約 46 m²）

- ・収蔵室と既存建物との連絡動線として、アクセスがしやすい配置とします。
- ・搬入された資料の一時保管、開梱等の作業スペースとします。
- ・企画展示や、アトリエ活動に必要な資料、資材の準備作業ができるスペースとします。
- ・シンクを配置します。

(3) 展示公開

① 展示室全般

(既存建物 火山展示室 A 約 311 m²、火山展示室 B 約 156 m² ギャラリー 約 82 m²)

- ・展示は実物資料を中心とし、映像・音声・模型や複製・参加体験型展示などの手法も取り入れ、分かりやすい展示とします。
- ・実物資料の展示にあたっては、その保存と管理に十分配慮し、また、資料を安全かつ迅速に入れ替え可能な展示方法を検討します。
- ・将来的なリニューアルや展示内容の容易な更新を考慮した展示方法を検討します。
- ・映像や音声、模型展示の導入にあたっては、容易なメンテナンスを考慮します。また模型展示では、可動性・可変性を考慮します。
- ・展示室内は、開放感のある(見通しの良い)展示配置とし、団体の来館者案内及び災害時の避難誘導に十分配慮します。
- ・全ての方が快適に展示を理解できるよう、ユニバーサルデザインに配慮します。(視聴覚等の障がいをお持ちの方が展示解説に参加できるように、直接触れることのできる展示品の設置や点字などによる解説文の作成等を検討します。)
- ・基本的に外光を遮断し、紫外線の進入を防ぐことのできる配置計画とします。
- ・電気設備と照明設備は展示資料やメンテナンスに配慮したものとします。LED 採用、紫外線カット、波長調整や演出機能を備えた照明、展示演出や映像情報を踏まえた十分な電気容量、用途運用を考慮した分電盤、調光盤回路の導入を検討します。
- ・展示資料の保存と公開に配慮した平面配置、動線、保存環境機能に配慮します。
- ・開放性と展示演出・効果が両立された計画とし、監視カメラなどのセキュリティ環境を検討します。
- ・展示の可変性に対応した計画とします。展示物の吊り下げバトンやライティングダクトなどの天井設備、什器固定や電気配線にフレキシブルに対応できる床などを検討します。
- ・展示の考え方に基づき、ガイドの方が活動しやすい場づくりを展示室全般及びエントランスホールなどで検討します。
- ・展示を通して伊豆大島への関心を深めた来館者が、自分の端末等でインターネットを通して観光情報などをタイムリーに調べられるように、無料 Wi-Fi、4G、LTE など外部への公衆回線利用を検討します。

② 企画展示室「御神火ギャラリー」(既存建物 約 45 m²)

- ・全国巡回展示の受け入れや地域交流を提供する展示が可能な展示室とします。
- ・多目的に使用できるように、天井照明はグリッド状のライティングダクトにするなど諸室の柔軟性を持たせた整備を検討します。

- ③ 体験ルーム「火と石と水のアトリエ」(既存建物 約 65 m²)
- ・椅子は 40 脚並べられるスペースを確保します。(講座などスクール形式での配置時)
 - ・ワークショップ時には 6 人でグループワークできる椅子と机を組み設置できるスペースを確保します。
 - ・風除室への扉の活用など屋外への連続性を持たせた利用についても検討します。
 - ・体験ルームのみの利用が可能となるよう利用者動線への配慮を含めて検討します。

- ④ 準備室(既存建物 約 26 m²)
- ・ワークショップや講座などに必要な備品や一部展示ケースなどの什器を保管し、施設の活動準備や、展示更新の準備作業を行えるスペースとします。

(4) 情報発信・広報普及

- ① エントランスホール(既存建物 約 161 m²)
- ・施設の総合案内機能を有するよう配慮します。
 - ・インフォメーションスペースとして、誰もが気軽に利用できるスペースとします。
 - ・展示を通して伊豆大島への関心を深めた来館者が、自分の端末等で観光情報などをタイムリーに調べられるように、無料 Wi-Fi、4G、LTE など外部への公衆回線利用を検討します。

- ② ジオガイドステーション(既存建物 約 64 m²)
- ・伊豆大島ジオパークに関する情報提供を行います。
 - ・伊豆大島の地図上に情報を記入できるホワイトボード型マップを設置します。
 - ・各種ポスターを紹介できる掲示板を設置します。
 - ・各種パンフレットを提供するパンフレットラックを設置します。
 - ・伊豆大島を立体的にガイダンス案内できるジオラマを設置します。
 - ・ミュージアムショップ機能を設置します。
 - ・常設展示や企画展示の入館管理をする受付機能を設置します。

- ③ ガイドワークルーム(既存建物 約 65 m²)
- ・事務作業や、休憩と更衣を想定し、3~5 名が一度に休憩することが可能な広さとします。
 - ・増築建物と既存建物の動線を兼ねることとします。

④ 機械置場（増築建物用）

- ・空調機械は外部とし、メンテナンスしやすい配置とします。
- ・空調機械は、騒音・振動対策を十分に行います。
- ・屋外設備機器置場は来館者や周辺からの視線に配慮して計画します。

⑤ 屋外広場

- ・施設の広報普及や多くの人に火山やジオを身近に感じてもらうための様々な屋外イベントなどを開催できるようにするため、柔軟に対応できるような外構と設備が求められます。

3. 設計・工事区分の考え方

建築と展示の連携を図りながら設計・施工を進めるための担当区分

本計画では、展示計画及び施設計画が含まれています。今後の設計や施工・製作においては、建築・展示、それぞれの分野の連携を図ることで、一体的な施設づくりを行う必要があります。

そこで、設計や施工における建築と展示の区分を計画することで、それぞれの役割分担や施工の範囲を明らかにするとともに、保守・メンテナンスなどの役割分担や効率化にもつながります。

第5章 管理運営計画

1. 運営に求められる機能

「伊豆大島ジオミュージアム(仮)」へと進化するために

情報収集、調査研究、交流活動、情報発信のコーディネート機能が求められる

「伊豆大島を形作る大地の活動」を多様な視点から見出し、「伊豆大島の魅力」を広く伝えていく活動を展開するためには、島内外の様々なステークホルダーとの連携が欠かせません。新しい「伊豆大島ジオミュージアム(仮)」では、多様な主体の協力を得ながら、双方にとってメリットとなる事業をコーディネートできる人材と体制が求められます。

(1) 「ジオパーク」としての情報集積と魅力開発機能

常に新鮮な話題を仕入れる

火山学や地質学の学識者、研究機関との連携、日本各地のジオパークとの連携、伊豆大島に関する研究情報の収集などを通して、「伊豆大島の魅力」の源泉となる情報を集積する機能が求められます。こうした機能を果たすためには、関連する外部機関の方々とのネットワークを確立し、恒常的に情報交換が可能な人材と体制が求められます。

(2) コンテンツ素材提供者のネットワーク

常に新鮮なネタを仕入れる

伊豆大島の自然は、四季を通じて常に姿を変えています。新しい「伊豆大島ジオミュージアム(仮)」ではいつも新鮮な情報を提供できるよう、季節折々の姿を画像や動画にとらえて発信していくことが効果的です。そのためには、島内外の各種活動と連携しコンテンツ素材の提供を受けられる体制を確立し、相互メリットを創出していく体制が求められます。

(3) 島内外の観光・レジャー事業者、交通事業者、教育産業などとの連携機能

様々な観光アクティビティとの相乗効果

伊豆大島では様々な観光やレジャーのアクティビティが実施されています。今後、より多くの方々を伊豆大島に誘客するには、各々が展開するアクティビティの魅力アップだけでなく、複数の体験を連携させることで、より伊豆大島らしいアクティビティを開発することが考えられます。「伊豆大島ジオミュージアム(仮)」を拠点に、大地の営みを活用した遊びと学びの詰まったツアー企画のための連携やつながりをコーディネートできる体制が求められます。

(4) 島の資源を活用した体験プログラムの開発と実施機能

ちょっとした遊びにもジオパークの要素を加味した大島らしさを導入

いつでも気軽に来館していただけるよう、多様な体験プログラムを開発、実施することが求められます。ジオガイドの皆さんとも協力しながら、火山のしくみが分かるお菓子作りや、手軽な地質学実験など、遊びながら伊豆大島の特徴が理解できるような楽しいプログラムを実施できる体制が求められます。

2. 運営方式の検討

多岐にわたる事業活動を様々なターゲットと連携し
継続的に展開するための様々な可能性を検討

ジオミュージアム（仮）は、伊豆大島ジオパークの中核拠点としてジオパーク推進係が施設の運営、事業活動を主体的に行い、島内外の人たちとの連携・協力を通じて、伊豆大島全体の持続的な発展をけん引していく場となります。

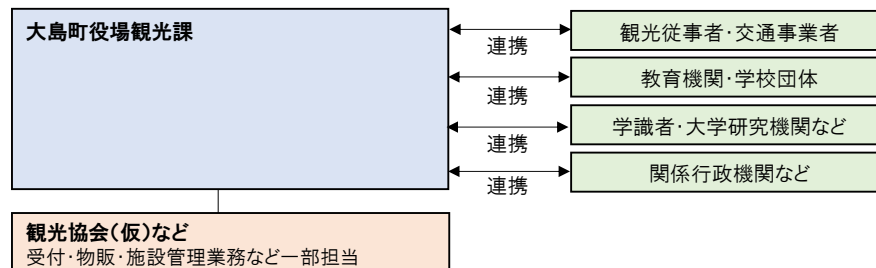
管理運営方式には、主に、①大島町が直接施設を運営する「直営方式」、②大島町が直接運営することを基本としながらも、専門的な業務領域を一部民間企業等に委託する「直営一部民間委託方式」、③管理運営を民間ノウハウの活用観点から、民間企業等に包括的に委ねる「指定管理者制度」の3つの方式があります。

今後、施設の性格や事業の継続性と、伊豆大島を一体で盛り上げる様々な人たちとの連携を考慮しながら、最適な方式を検討していく必要があります。

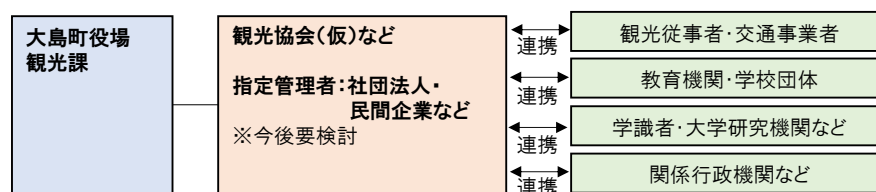
A: 直営方式



B: 直営+業務委託方式



C: 指定管理方式



長所

- ・主管課であるジオパーク推進係が各イベントや事業活動に主体的に取り組める。
- ・関連機関との連携やこれまでの推進活動が継続されているため、開館後の活動や連携もしやすい。
- ・町の政策や方針決定に対して柔軟な対応が可能。

短所

- ・すべての管理運営業務を一括で引き受けるため業務量が増加する。

- ・直営同様、主管課であるジオパーク推進係が、施設の管理運営や事業活動に対して主体的に取り組める。
- ・運営業務の役割分担において、状況にあわせて柔軟に対応できる。
- ・業務の分担ができる。
- ・町の政策や方針決定に対して柔軟な対応が可能。

- ・施設の管理運営において意思統一がしづらい

- ・運営に必要な責任と権限を民間に付与できるため、民間の柔軟なノウハウを活用できる。

- ・指定管理者の業務範囲の検討や要求水準の作成に時間がかかる。
- ・各連携先とのネットワークが連携が希薄なため、連携事業の立ち上げに時間がかかる。
- ・指定管理者選定の時点以降の、業務内容の変更が難しい

3. 開館時間・閉館日の検討

現在の火山博物館及び類似施設の事例を踏まえ、
多くの利用を見込める開館時間、閉館日の設定の検討が必要

第2章の事業活動計画内のターゲットの設定で示したとおり、ジオミュージアム（仮）は観光客をはじめとして、様々な利用者層が想定されます。多くの方々に来館してもらえるように、基本的には年中無休とし、展示及び設備のメンテナンス時に休館日を事前告知の上設定することが望ましいと考えられます。

現在の火山博物館及び、近隣のジオパークに関するミュージアムや、国内の火山に関する展示をしている類似施設の事例は下表のとおりとなっています。これら既存の火山博物館、類似施設の事例を踏まえ、今後、施設の開館時間・閉館時間の検討が必要です。

なお、地域利用などを想定した一部居室（火と水のアトリエなど）の開館時間の延長についても、地域の意見や管理運営上の課題を確認しながら検討していきます。

施設名	開館時間	閉館日	選定理由
伊豆大島 火山博物館	9:00～17:00 (入館は16:30まで)	年中無休 (年間11日の臨時休館日あり)	リニューアル 前施設
箱根 ジオミュージアム	9:00～16:00	年中無休 (天候等により開館時間変更・ 臨時休館あり)	近隣類似施設
伊豆半島ジオパーク ミュージアム ジオリア	9:00～17:00 (入館は16:30まで)	水曜日 (水曜が祝休日の場合は翌平 日休館)	近隣類似施設
がまだすドーム	9:00～18:00 (入館は17:00まで)	年中無休	国内類似施設

4. 入館料の検討

来館者動向や現在の火山博物館、類似施設の事例を参考に 適正な入館料の検討が必要

入館料の検討については、来館者の動向や、施設の管理や事業活動の継続に必要な費用などを検討するとともに、現在の火山博物館及び同種の類似施設の事例なども踏まえて、総合的な検討のもとで適正な料金の設定を行うものとします。また、参考として前頁の開館時間・休館日の設定の際に挙げた火山博物館及び類似の施設の入館料を下表にまとめています。

施設名	入館料	備考
伊豆大島 火山博物館	大人 500 円（団体 400 円） 小中学生 250 円（団体 200 円）	・映像シアター別料金 ・団体は 20 名以上
箱根 ジオミュージアム	大人 100 円 子ども 100 円（未就学児は無料）	インフォメーション ゾーンは無料
伊豆半島ジオパーク ミュージアム ジオリア	無料	
がまだすドーム	【常設展示室】 大人 1000 円（団体 800 円） 中高生 700 円（団体 560 円） 小学生 500 円（団体 400 円） 【子どもジオパーク】 300 円 【ワンダーラボ(ワークショップ)】 500 円（団体 400 円） ※一部 200 円のメニューあり	・団体は 15 名以上 ・年間フリーパスあり ・セット券あり

■伊豆大島ジオミュージアム（仮）の各連携先（案）

伊豆大島ジオミュージアム（仮）は、島内外の様々な方たちと連携していき、ともに作り、成長していく開かれた施設運営を目指します。そのため、運営に関係する行政機関や観光産業事業者などの他に、島内の来館者や島外からの来島者も、ターゲットであると同時に、ともに伊豆大島を盛り上げるための連携先として設定していきます。

地方自治体	大島町	
	東京都大島支庁	
関係行政機関	気象庁伊豆大島火山防災連絡事務所	火山観測調査・防災教育
	環境省伊豆諸島管理官事務所	国立公園・自然環境の保護と利用
教育関係	大島町教育委員会	
	東京都教育庁大島出張所	
	大島町立小中学校	
	東京都立高校	大島高校・大島海洋国際高校
	大島町郷土資料館	
	大島町立図書館	
	(学校教員)	
観光産業事業者	大島観光協会	
	大島町商工会	
	(宿泊事業者)	
	(飲食店)	
	(土産販売店)	
	(ガイドショップ)	
	(ダイビングショップ)	
	(大島ダイビング連絡協議会)	
交通事業者	東海汽船株式会社	
	大島旅客自動車株式会社	大島バス
	タクシー協会	
	レンタカー協会	
	新中央航空	
	愛ランドシャトル	

住民団体	伊豆大島ジオガイドの会	
	伊豆大島ジオパーク研究会	
	大島自然愛好会	
学識者・大学	伊豆大島ジオパーク推進委員会学識委員	
	児童生徒	
	ファミリー	
	学校教員	
	ガイド	
来島者	一般観光客	
	海レジャー(海水浴・ダイビング・釣りなど)	
	山レジャー(トレッキング)	
	サイクリスト	
	スポーツ合宿	
	巡検・実習(SSH、地学部・生物学部学生など)	
島外連携機関	大学・研究機関	東京大学地震研究所(東大地震研) 産業技術総合研究所(産総研) 防災科学技術研究所(防災科研) 国土地理院
	全国火山博物館ネットワーク	
	日本ジオパークネットワーク	

第6章 今後の事業推進に向けて

1. 今後のスケジュール

開館後も継続的に利用される施設設計をめざすため、 活動計画をしっかりと検討できるスケジュールを設定

(1) 事業スケジュール

今後のスケジュールの進め方では、建築と展示の調整を容易にし、一体的な設計を行うために、基本設計段階では展示・建築一括の基本設計業務とします。実施設計段階では、より専門的な技術的知見を導入するため、展示、建築それぞれを個別の専門業者に発注します。

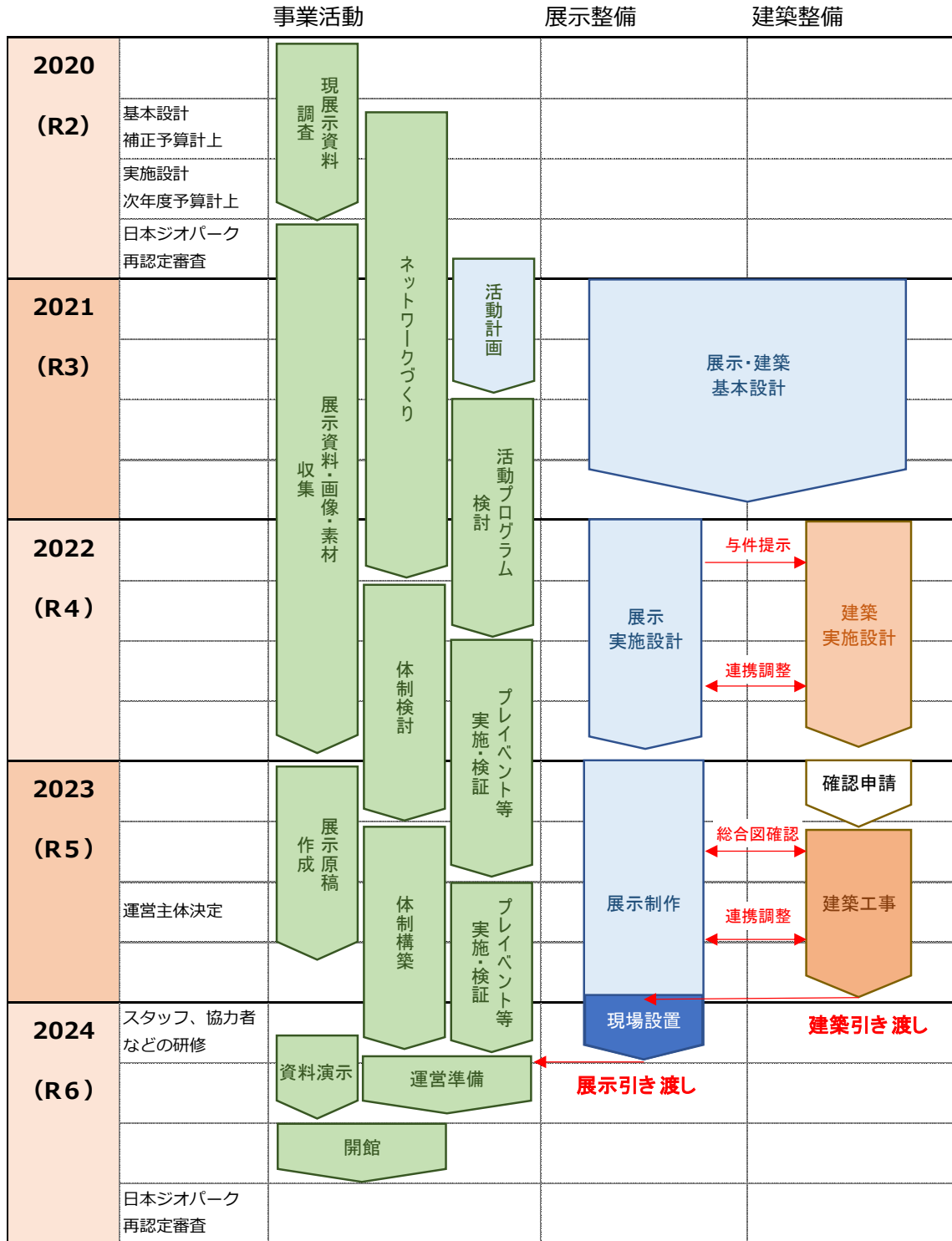
また展示製作については、施設規模も大きく、扱うコンテンツが専門的かつ多量となることが予測されるため、建築工事に先行して十分な期間のもと、コンテンツ調査等を進めていき内容検討していく必要があります。

(2) 事業を進めるにあたっての課題

事業を進める中で、施設の供用開始後の円滑な管理運営を見据え、設計と並行して第2章の事業活動計画、第5章の管理運計画の詳細等についても、しっかりと検討していく必要があります。

加えて、ジオミュージアム（仮）は観光の担い手や地域の人、ジオパークやジオミュージアムの協力者とともに伊豆大島の魅力を磨き、発信していく施設となります。そのため、早期から施設を利用が見込まれる方々とのネットワークをつくり、設計段階にはその方々とヒアリングやワークショップなどを通じて、施設の活動と展示内容をともに考えて、つくり上げていく必要があります。

【事業スケジュール】



2. 事業費の検計

類似施設の建設工事費、展示製作工事費や関連する設計料率等により、以下の概算事業費を想定します。

■製作・工事費

項目	金額	
建築改修工事	127,700,000	
屋根改修	49,700,000	
改修 建築・設備工事費	78,000,000	
改修費内訳		
1階防災展示室内の壁を撤去	20,200,000	
1階防災展示室の備蓄庫の壁撤去	4,600,000	
1階空調機械室を会議室へ改修	8,600,000	
1階無料ゾーンの内装新設	15,200,000	
2階火山展示室Aの床段差撤去	13,300,000	
2階火山展示室Bの床段差撤去	8,000,000	
中央のRC階段一部撤去	3,600,000	
増築等接合	2,700,000	
1.2階接続部7m庇新設	1,800,000	
増築工事	108,300,000	
杭工事	3,300,000	
増築 建築・設備工事費	56,000,000	
外構工事	27,000,000	
サイン工事	5,000,000	
什器・備品	17,000,000	
展示製作	400,000,000	
展示製作	400,000,000	
総工事費	636,000,000	(税抜)
消費税	10%	63,600,000
総合計	699,600,000	

■設計費

展示・建築基本設計費	26,260,000	(税抜)
基本設計費内訳		
活動基本計画	685,000	
委員会支援	830,000	
展示基本設計	16,685,000	
既存建物改修 基本設計	4,520,000	
増築建物 基本設計	3,540,000	
建築実施設計	16,280,000	(税抜)
既存建物改修 実施設計	9,100,000	
増築建物 実施設計	7,180,000	
展示実施設計	32,400,000	(税抜)
展示実施設計	30,800,000	
建築実施設計監修	1,600,000	

伊豆大島火山博物館
リニューアル基本計画改訂
令和2年3月

発行：大島町

編集：大島町観光課

〒100-0101 東京都大島町元町1丁目1番14号

TEL 04992-2-1446

